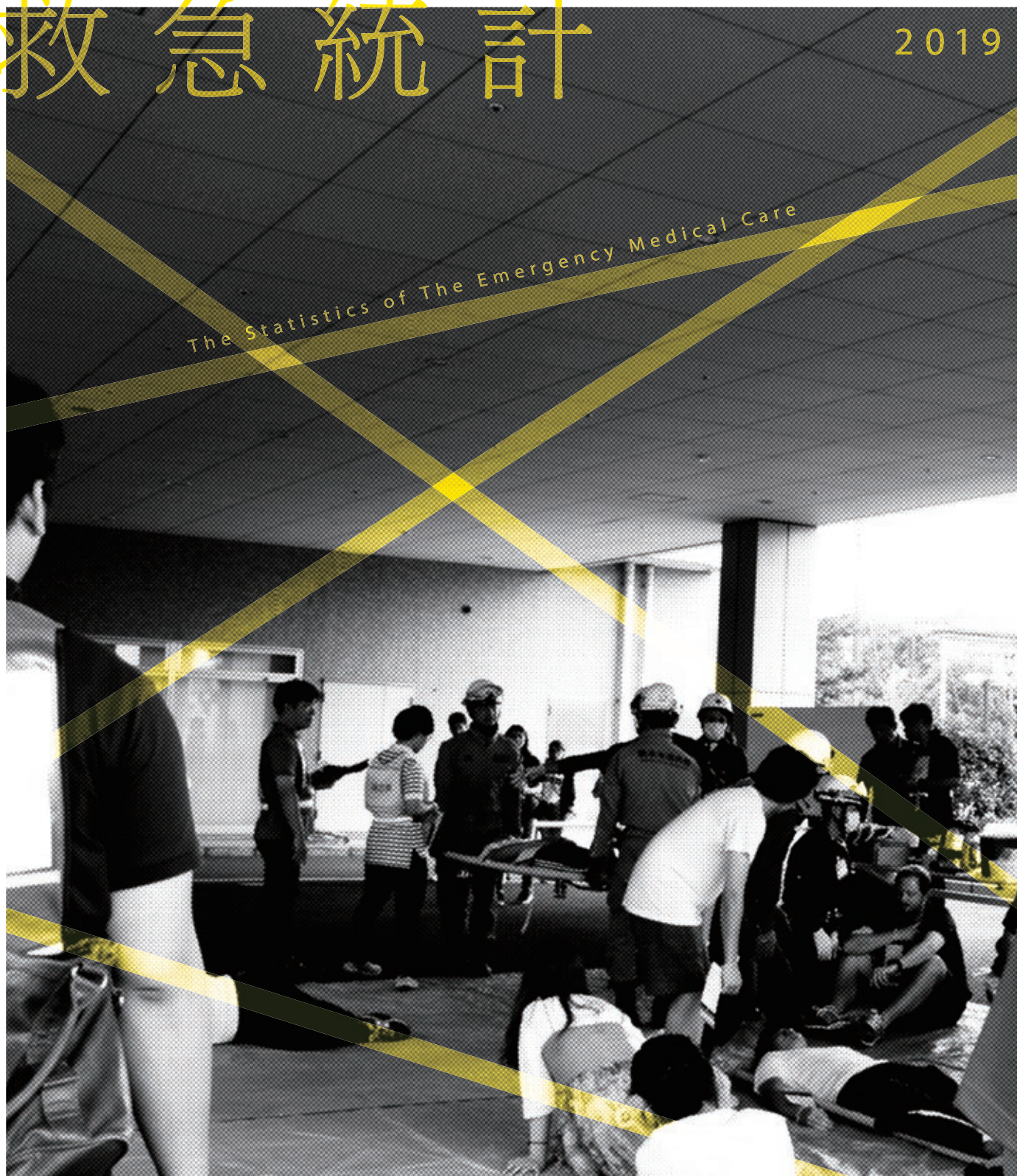


救急統計

2019

The Statistics of The Emergency Medical Care



第2回 4Rメディカルラリーの様子

コロナ危機を乗り越えて、「救命」から「社会復帰」へ

生命の危機と向かい合う救急医療は、いわば「人間の安全保障」です。しかし、「救命」だけがゴールなのではありません。後遺症を残さず、普段の生活を取り戻し、「良く生きる」ことができるよう最善を尽くす。「社会復帰」を目指した救急医療は、当院救命救急センターの使命です。2019年度の活動を本報告にまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

2019年度の救急患者数は18,656名でした。そのうち救急車等による搬送患者数は、8,805名（47.2%）と前年度に比し700件近く減少しました。入院となった患者数も7,280名と減少（前年度比 ー157名）しました。2月以降の救急患者の減少が目立ちますが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大（報道）による受診抑制が懸念されます。入院率が39.0%と上昇し、CPA患者数は微増、48時間以内の緊急手術割合は5.7%と上昇していますので、重症化してから受診する傾向が見て取れます。二次保健医療圏別に見ますと、熊本市、上益城、宇城医療圏からの搬送が90.8%でした。医師による現場出動件数は90件に増加しています。救急ホットラインの応需率は、98.4%とほぼ前年並みでしたが、99%以上の応需を目指して努力したいと思います。

私たちは「断らない救急」を推し進めるだけではなく、その「質」に注目した活動を行っています。「クラウド型心電図伝送システム」や、「体外循環式心肺蘇生法（E-CPR）」には、救急・集中治療部門をあげて取り組んでいます。救急医療に携わる人材を育てるための活動として、熊本市消防局のご厚意で研修医・看護師のプレホスピタル研修を開始しました。4Rメディカルラリーへの参加や外傷クラブ、済生メディコン会を通して、学びを深めています。

2020年、COVID-19の拡がりは、救急の初期対応に変化をもたらしました。また皆様と共に集い、学び合う機会を持つことも厳しくなってきました。しかし、COVID-19以外の急性疾患が消えて無くなったわけではなく、むしろ適切な救急医療が行われていない可能性があります。当院は「救命救急センター」として、心筋梗塞や脳卒中の「急性期拠点病院」として、また高度専門医療を担う病院として、感染症対策に十分な注意を払いながら、さらに質の高い救急医療の実践に努めて参ります。

関係の皆様には、ご理解とご支援を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



病院長
中尾 浩一

2020年12月

救急統計2019の発刊にあたり

既に2020年の年末となる時期に、従来より大分遅れの
発刊となっていました。

2019年度の最終四半期以降、日本のみならず世界的
な記録・記憶に残る年となりつつあります。2019年年末
に中国・武漢で発生したSARS-CoV-2ウイルスによる
COVID-19感染症であり、現時点でも世界各国で大量の患
者発生と死亡者数の増加が継続中です。2020年1月には、
欧州に飛び火し、2月に入ると横浜に入港した豪華客船ク
イーンエリザベス号内でクラスタが発生、日本でも一気に患
者数の増加が確認されました。3月に入ってWHOは遅れば
せながらのパンデミック宣言を行いました。が、地元熊本でも2月下旬に初めての陽性患者が
確認されて以降、2020年3月の年度末までに14名の患者が入院加療となっております。4月
以降のCOVID-19に関する経過等は、救急統計2020に詳しく記載することになると思いま
すが、5月下旬の緊急事態宣言全面解除後に、7月3日熊本県南部地域を中心に襲った集中
豪雨による風水害により県南部が、多大なる被害を受けたことを書きとどめて災害に関する
コメントは一旦ペンを置きます。

2019年度の救急統計を振り返りますと、救急外来を受診された救急車等搬送患者、
ウォークイン患者の数は2016年の熊本地震以降再増加の傾向でしたが、地域基幹病院で
ある熊本市市民病院の新築再スタートの影響に加えて2月3月の大きな減少は、COVID-19
による救急患者の受診控えの影響を考慮しております。それ以外でも特に目に付くのがISS16
以上の重症多発外傷患者数の減少です。近年以前にも増して重症外傷にも力を入れ数
年前より外傷倶楽部なるものを院内教育と外傷システム構築の目的に立ち上げ、新たに
Trauma callによるチームビルディングや対応後のデブリーフィング、シミュレーション実習
等でその成果を実感する事例経験を積み上げていました。減少が一過性のものか、これも
COVID-19の影響が関係しているのか推移を見守りたいと思います。昨年度救急関連で新
たに実施したものとして、CBRNE対応訓練。また、2018年度より熊本市中央消防署と南署
のご協力のもと臨床研修医に実施していましたプレホスピタル研修。中央指令課や救急車
同乗実習を救急外来専任看護師に広げて研修し、プレホスピタルを担う救急隊との相互理
解に努め、手応えを感じている所です。また、一昨年にスタートした4Rメディカルラリーの第
2回開催を2019年7月に九州各地から参集いただき、盛況の元行うことが出来ました。

来年度がどのようなカタチのNew Normalになるのか、現状では全く想像がつきません
が、最悪を想定しつつ、一喜一憂しながら、ハラハラドキドキの救急医療となる予感がしてい
ます。



救命救急センター長
前原 潤一

2020年12月

救 急 統 計

The Statistics of The Emergency Medical Care

2 0 1 9

C o n t e n t s

救急統計2019の発刊にあたり

院長 中尾 浩一
救命救急センター長 前原 潤一

救急統計

1.2015年度～2019年度救急統計概要《5年推移》	2
2.来院手段	
2-1.5年推移(2015年度～2019年度)	3
2-2.月別	3
2-3.曜日別	4
2-4.時間帯別	5
3.転帰内容《5年推移》	6
4.年齢構成	7
5.CPA数	8
5-1.受入件数	8
5-2.E-CPR実績	8
6.救急ホットライン応需数	9
7.救命救急センター42床への入院患者数	
7-1.診療科別患者数	9
7-2.疾患別患者数(TOP20)	10
7-3.転帰別患者数	11
7-4.外傷データバンク(AIS-ISS別患者数)	11
8.紹介患者数	
8-1.紹介患者の転帰	12
8-2.二次保健医療圏別紹介患者数	12
9.医師(現場)出動件数	13
10.救急隊搬送件数	14
11.二次保健医療圏	
11-1.患者数	16
11-2.来院手段別	18

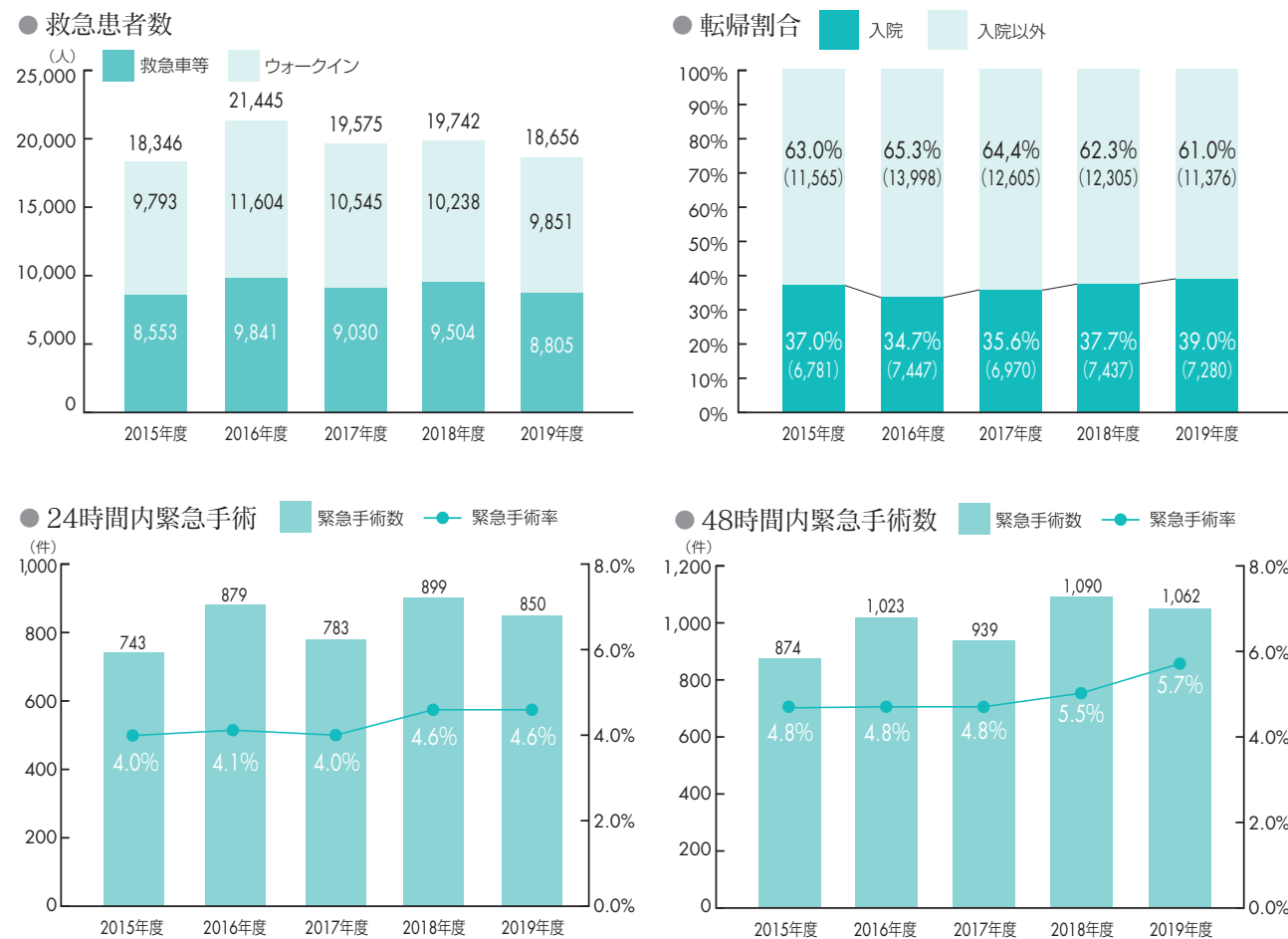
記 事

30～32

1 2015年度～2019年度救急統計概要《5年推移》

年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度	
救急患者数		18,346		21,445		19,575		19,742		18,656	
ウォークイン ※1		9,793	53.4%	11,604	54.1%	10,545	53.9%	10,238	51.9%	9,851	52.8%
救急車等 ※2		8,553	46.6%	9,841	45.9%	9,030	46.1%	9,504	48.1%	8,805	47.2%
性別	男性	10,027	54.7%	11,639	54.3%	10,910	55.7%	10,615	53.8%	10,182	54.6%
	女性	8,319	45.3%	9,806	45.7%	8,665	44.3%	9,127	46.2%	8,474	45.4%
平均年齢	入院	72.2		73.0		73.1		74.0		74.5	
	入院以外 ※3	59.4		59.2		59.8		60.4		60.6	
	全体	65.8		64.0		64.5		65.5		66.0	
転帰	入院	6,781	37.0%	7,447	34.7%	6,970	35.6%	7,437	37.7%	7,280	39.0%
	入院以外 ※3	11,565	63.0%	13,998	65.3%	12,605	64.4%	12,305	62.3%	11,376	61.0%
緊急手術 ※4	24時間内	743	4.0%	879	4.1%	783	4.0%	899	4.6%	850	4.6%
	48時間内	874	4.8%	1,023	4.8%	939	4.8%	1,090	5.5%	1,062	5.7%

※1 ウォークインとは、独歩、自家用車のこと
 ※2 救急車等とは、救急車、病院車 ※5、防災ヘリ、Dr. ヘリ、MCCU のこと
 ※3 入院以外とは、転帰が軽快・転医・死亡のこと
 ※4 緊急手術患者数とは救急外来受診後、緊急手術を要すると判断された患者数のこと（当院緊急手術区分該当者）
 ※5 病院車とは、各医療機関所有の病院救急車・患者搬送車のこと



2 来院手段

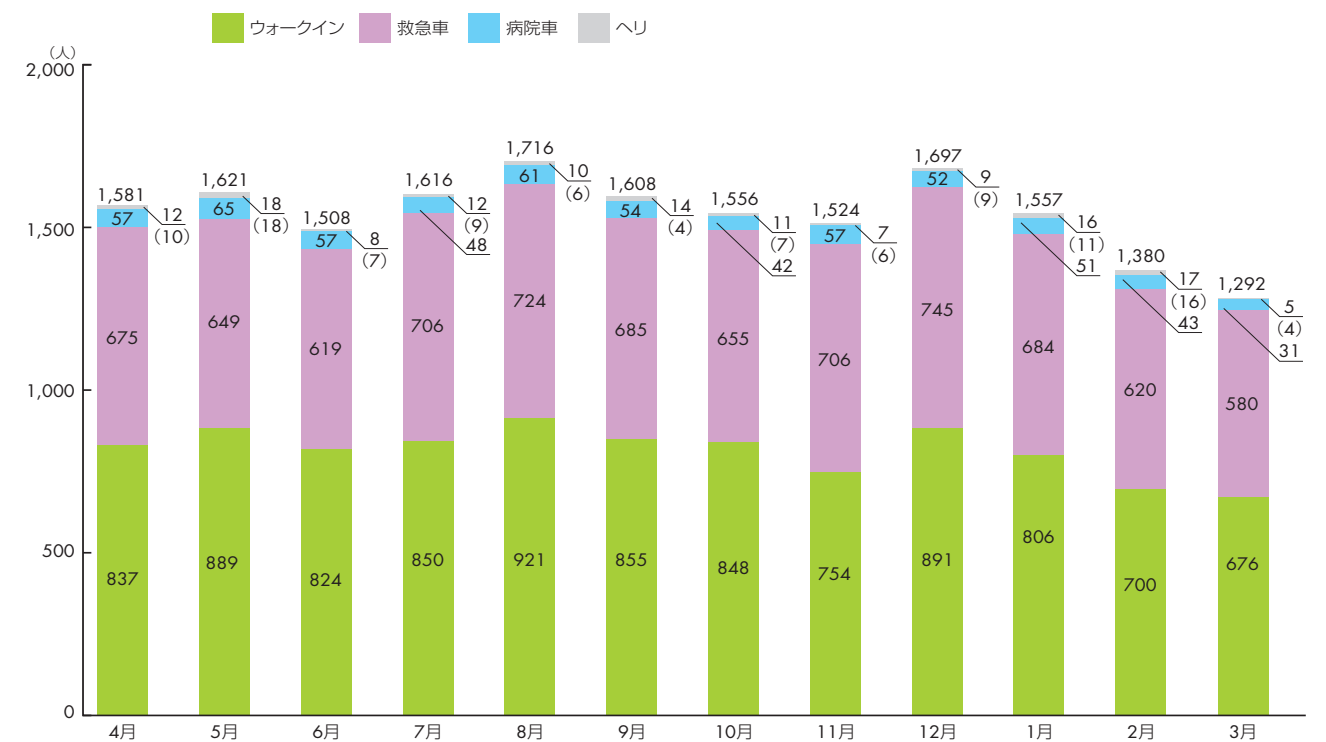
2-1 5年推移 (2015年度～2019年度)

来院手段		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
ウォークイン		9,793	11,604	10,545	10,238	9,851
救急車等	救急車	7,630	8,794	8,123	8,611	8,048
	病院車	766	863	741	739	618
	ヘリ	157 (130)	184 (148)	166 (135)	154 (116)	139 (113)
合 計		18,346	21,445	19,575	19,742	18,656

※ヘリ件数は Dr. ヘリと防災ヘリの合算。
 ※ヘリ件数の括弧内は Dr. ヘリ件数。

2-2 月別

来院手段	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ウォークイン	837	889	824	850	921	855	848	754	891	806	700	676	9,851
救急車等	救急車	675	649	619	706	724	685	655	745	684	620	580	8,048
	病院車	57	65	57	48	61	54	42	57	51	43	31	618
	ヘリ	12 (10)	18 (18)	8 (7)	12 (9)	10 (6)	14 (4)	11 (7)	9 (9)	16 (11)	17 (16)	5 (4)	139 (113)
合 計	1,581	1,621	1,508	1,616	1,716	1,608	1,556	1,524	1,697	1,557	1,380	1,292	18,656



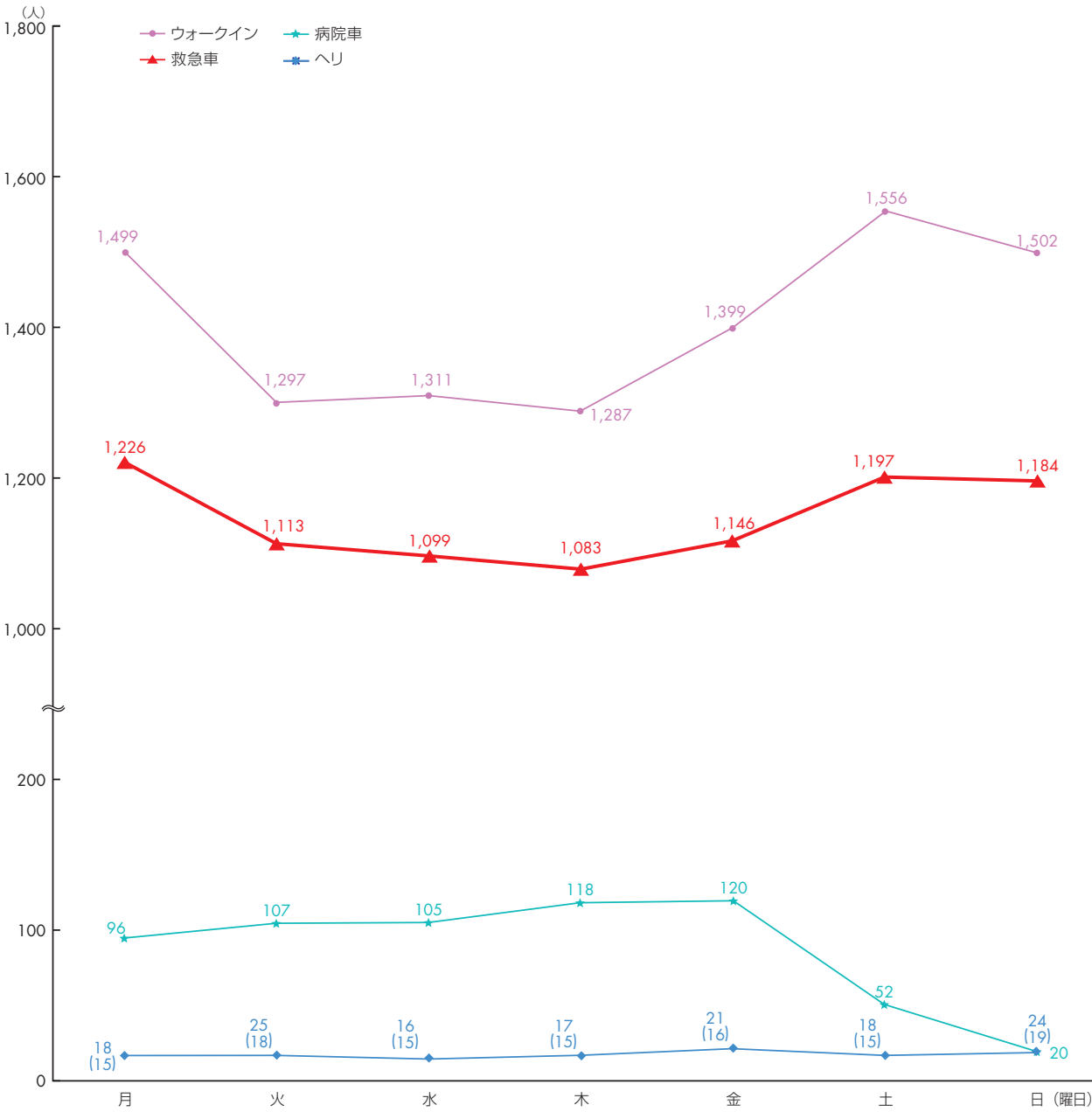
2 来院手段

2-3 曜日別

来院手段		(人)						
		月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
ウォークイン		1,499	1,297	1,311	1,287	1,399	1,556	1,502
救急車等	救急車	1,226	1,113	1,099	1,083	1,146	1,197	1,184
	病院車	96	107	105	118	120	52	20
	ヘリ	18 (15)	25 (18)	16 (15)	17 (15)	21 (16)	18 (15)	24 (19)
合 計		2,839	2,542	2,531	2,505	2,686	2,823	2,730

※ヘリ件数は Dr. ヘリと防災ヘリの合算。

※ヘリ件数の括弧内は Dr. ヘリ件数。



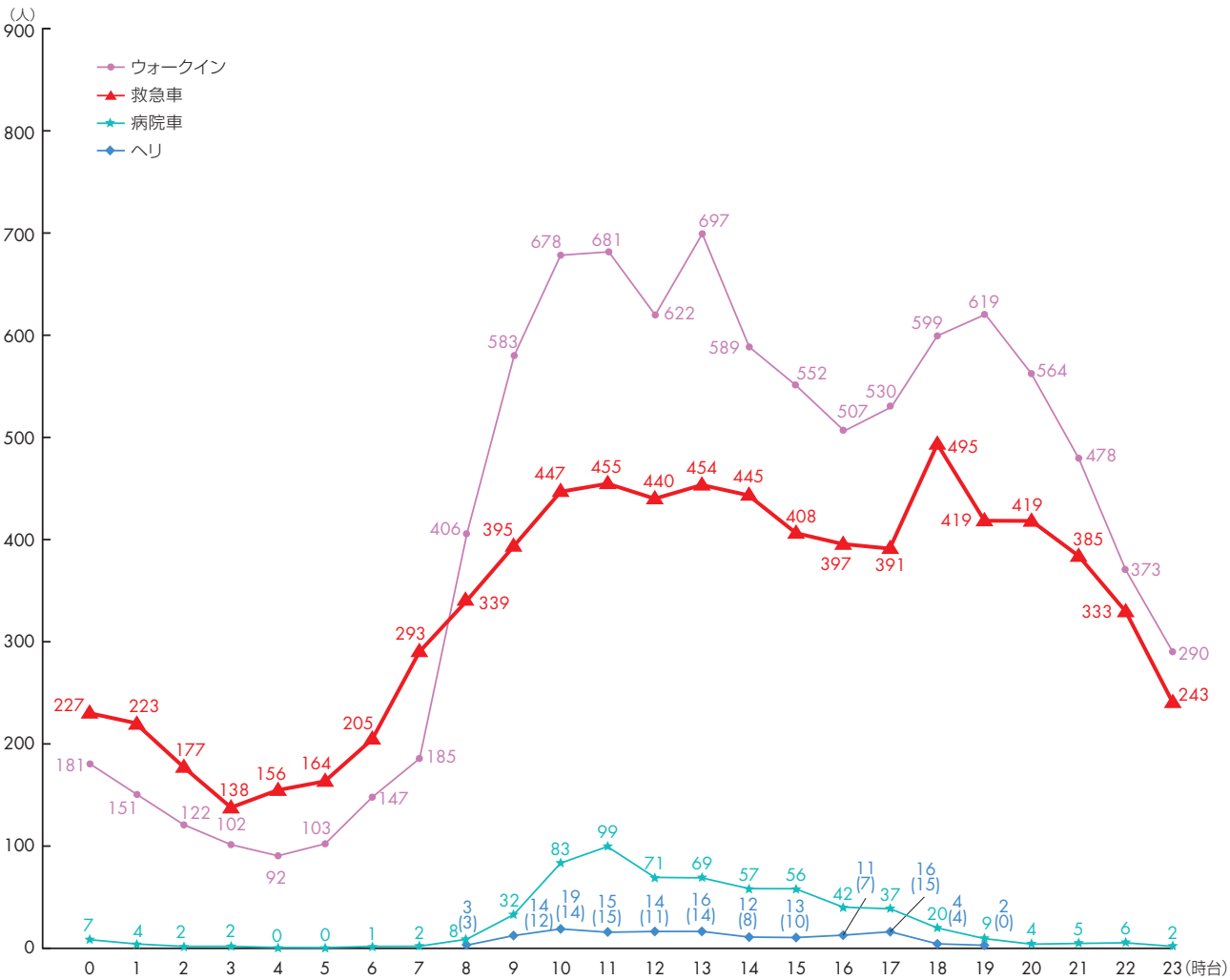
2-4 時間帯別

来院手段		0 時台	1 時台	2 時台	3 時台	4 時台	5 時台	6 時台	7 時台	8 時台	9 時台	10 時台	11 時台	12 時台
ウォークイン		181	151	122	102	92	103	147	185	406	583	678	681	622
救急車等	救急車	227	223	177	138	156	164	205	293	339	395	447	455	440
	病院車	7	4	2	2	0	0	1	2	8	32	83	99	71
	ヘリ	0	0	0	0	0	0	0	0	3 (3)	14 (12)	19 (14)	15 (15)	14 (11)
合 計		415	378	301	242	248	267	353	480	756	1,024	1,227	1,250	1,147

来院手段		13 時台	14 時台	15 時台	16 時台	17 時台	18 時台	19 時台	20 時台	21 時台	22 時台	23 時台	合計
ウォークイン		697	589	552	507	530	599	619	564	478	373	290	9,851
救急車等	救急車	454	445	408	397	391	495	419	419	385	333	243	8,048
	病院車	69	57	56	42	37	20	9	4	5	6	2	618
	ヘリ	16 (14)	12 (8)	13 (10)	11 (7)	16 (15)	4 (4)	2 (0)	0	0	0	0	139 (113)
合 計		1,236	1,103	1,029	957	974	1,118	1,049	987	868	712	535	18,656

※ヘリ件数は Dr. ヘリと防災ヘリの合算。

※ヘリ件数の括弧内は Dr. ヘリ件数。

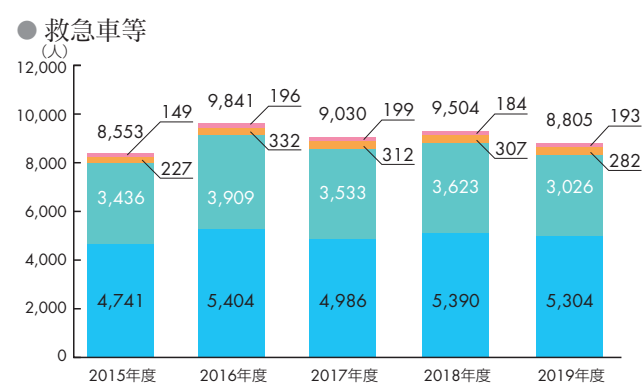
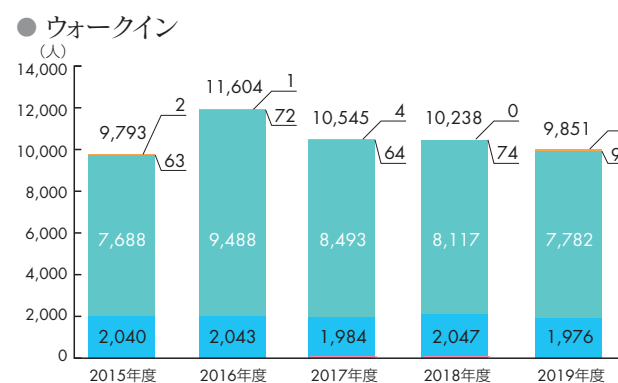
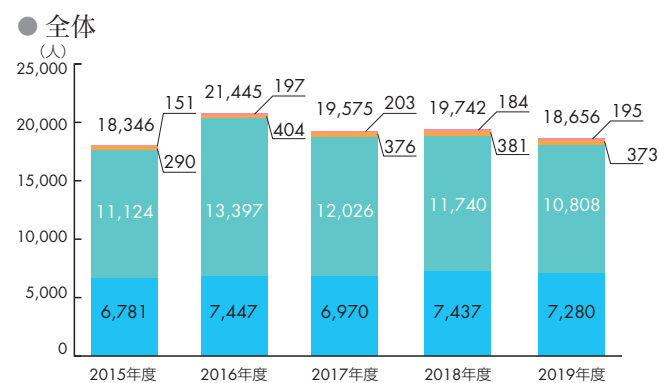


3 転帰内容《5年推移》

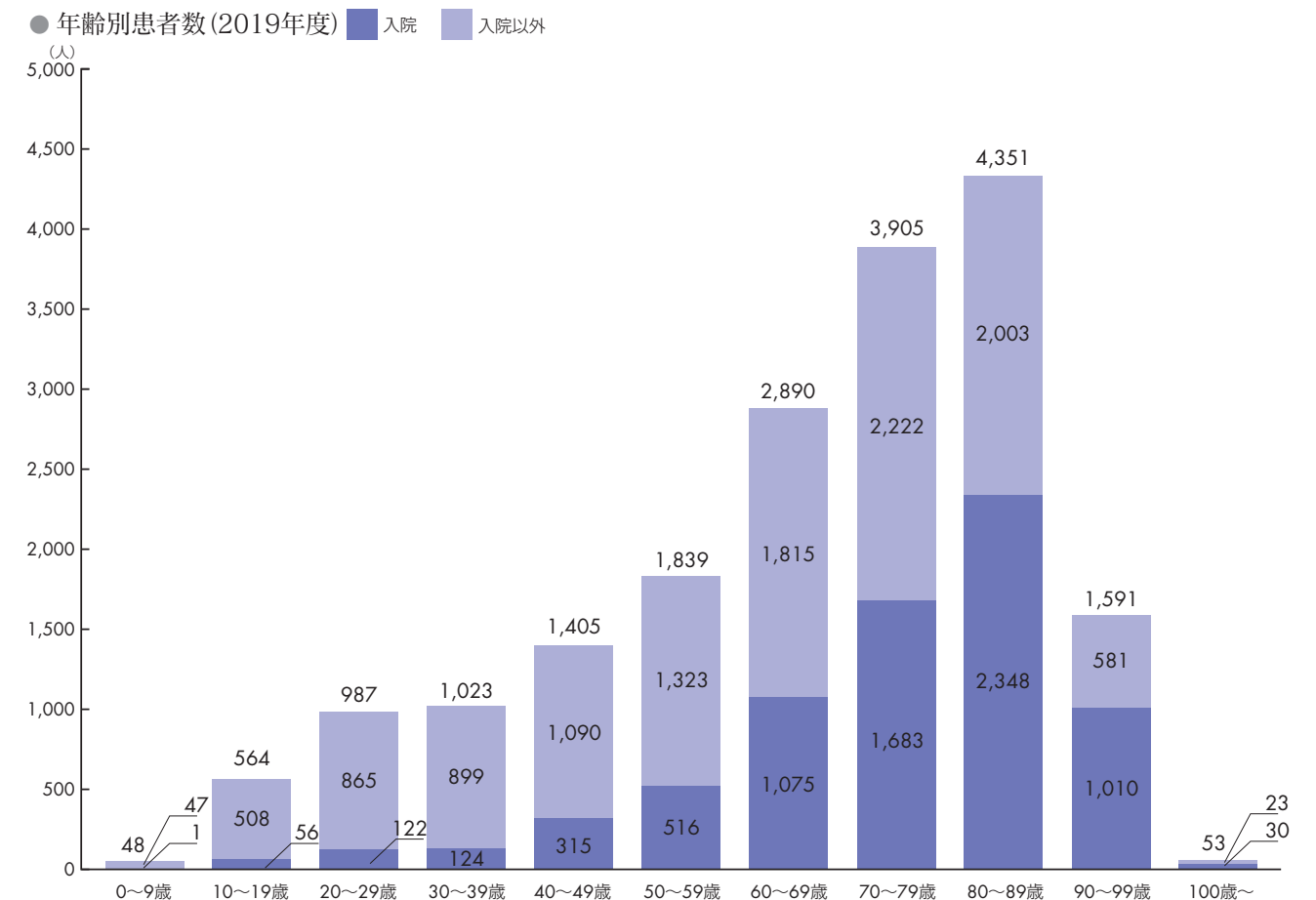
転 帰	2015 年度				2016 年度			
	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合
入 院	2,040	4,741	6,781	37.0%	2,043	5,404	7,447	34.7%
帰 宅	7,688	3,436	11,124	60.6%	9,488	3,909	13,397	62.5%
転 院	63	227	290	1.6%	72	332	404	1.9%
死 亡	2	149	151	0.8%	1	196	197	0.9%
合 計	9,793	8,553	18,346	100.0%	11,604	9,841	21,445	100.0%

転 帰	2017 年度				2018 年度			
	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合
入 院	1,984	4,986	6,970	35.6%	2,047	5,390	7,437	37.7%
帰 宅	8,493	3,533	12,026	61.4%	8,117	3,623	11,740	59.5%
転 院	64	312	376	1.9%	74	307	381	1.9%
死 亡	4	199	203	1.1%	0	184	184	0.9%
合 計	10,545	9,030	19,575	100.0%	10,238	9,504	19,742	100.0%

転 帰	2019 年度			
	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合
入 院	1,976	5,304	7,280	39.0%
帰 宅	7,782	3,026	10,808	57.9%
転 院	91	282	373	2.0%
死 亡	2	193	195	1.1%
合 計	9,851	8,805	18,656	100.0%

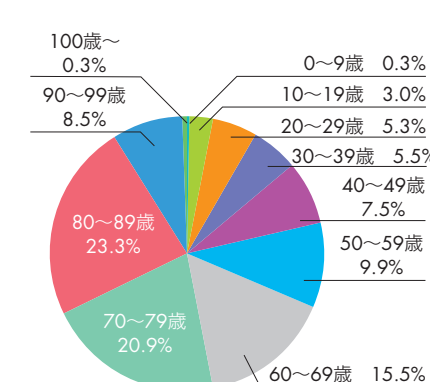


4 年齢構成

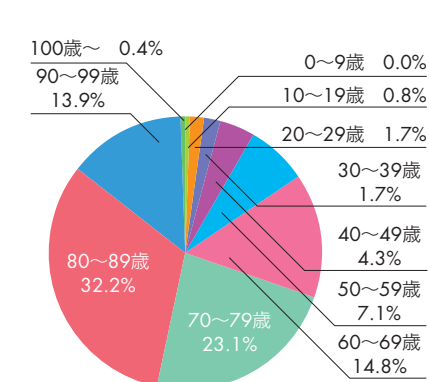


《年齢別患者数の割合》

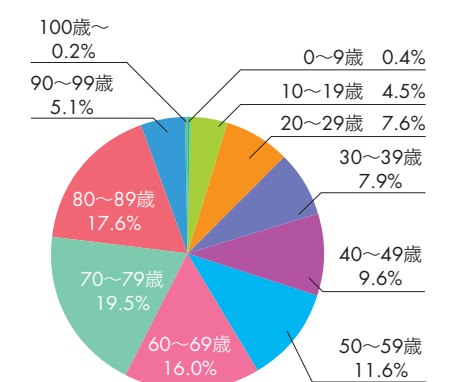
● 全体



● 入院



● 入院以外



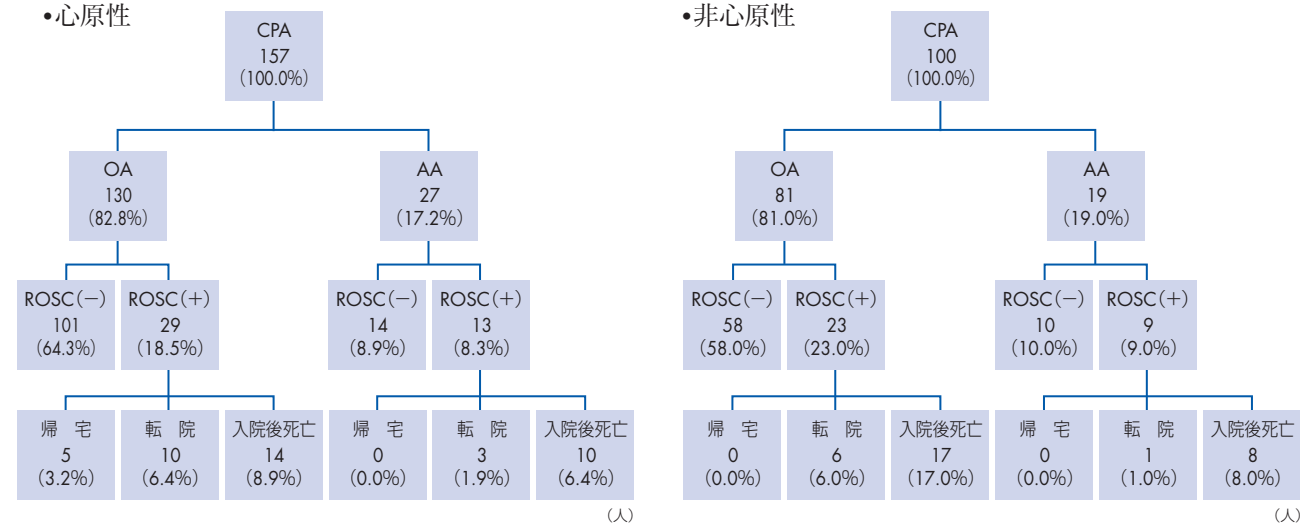
5 CPA 数 [CPA (cardio pulmonary arrest) : 心肺停止]

5-1 受入件数

内 訳	2015 年度		2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度	
OA ROSC (－)	126	54.3%	179	63.5%	173	68.1%	150	59.5%	159	61.9%
OA ROSC (+) ※車内 ROSC (+) 含む	54	23.3%	61	21.6%	44	17.3%	44	17.5%	52	20.2%
AA ROSC (－)	22	9.5%	20	7.1%	25	9.9%	32	12.7%	24	9.3%
AA ROSC (+)	30	12.9%	22	7.8%	12	4.7%	26	10.3%	22	8.6%
合 計	232	100.0%	282	100.0%	254	100.0%	252	100.0%	257	100.0%

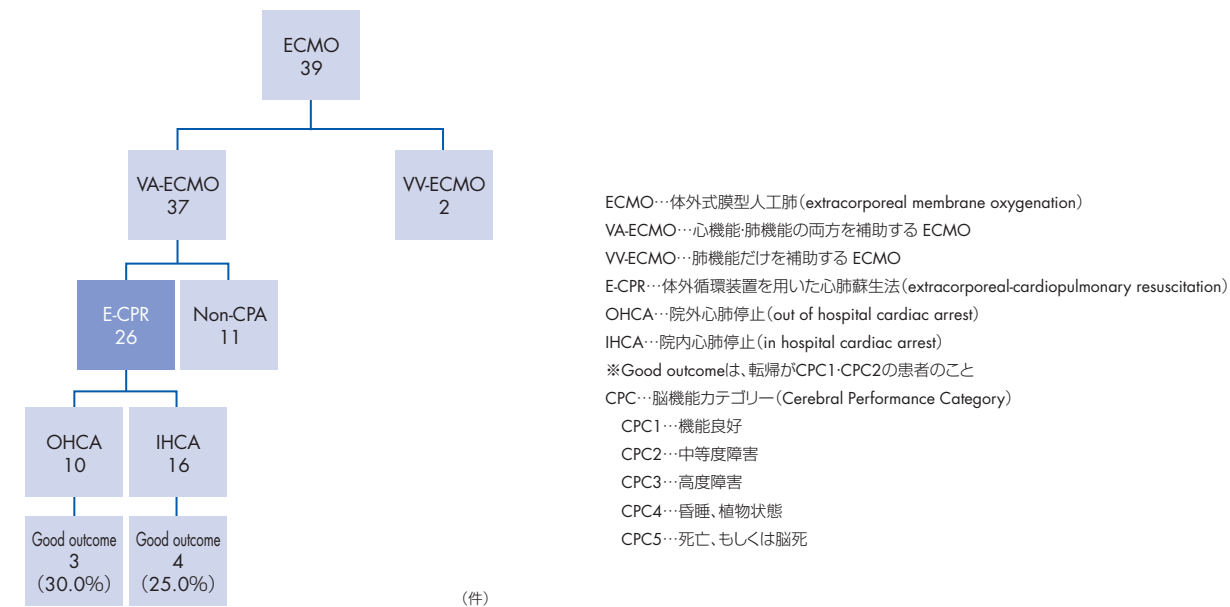
OA…到着（来院）時心肺停止 AA…到着（来院）直後心肺停止 ROSC…心拍再開（return of spontaneous circulation）

● 2019年度 ●心原性



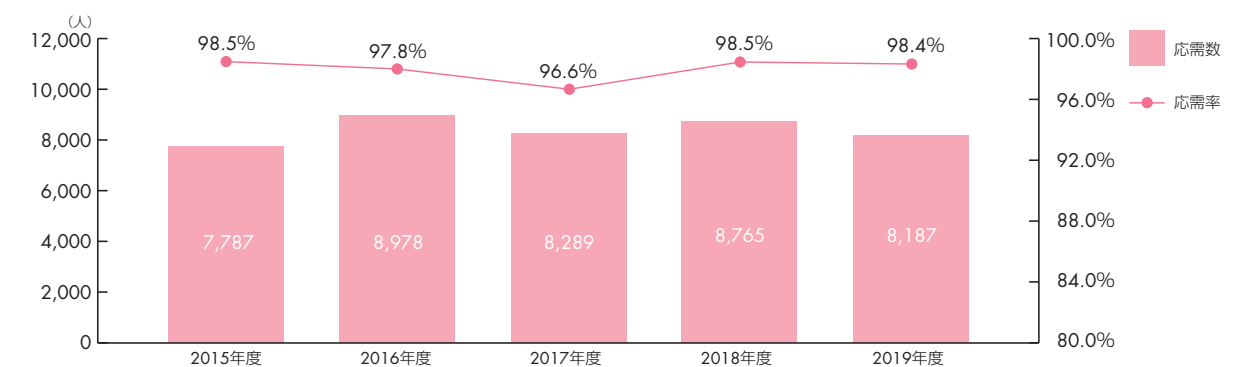
5-2 E-CPR 実績

● 2019年度



6 救急ホットライン応需数

種 別	2015 年度			2016 年度			2017 年度			2018 年度			2019 年度		
	件数	応需数	応需率	件数	応需数	応需率	件数	応需数	応需率	件数	応需数	応需率	件数	応需数	応需率
救急車	7,740	7,630	98.6%	8,987	8,794	97.9%	8,412	8,123	96.6%	8,743	8,611	98.5%	8,178	8,048	98.4%
ドクターヘリ	135	130	96.3%	155	148	95.5%	138	135	97.8%	121	116	95.9%	116	113	97.4%
防災ヘリ	28	27	96.4%	36	36	100.0%	31	31	100.0%	38	38	100.0%	26	26	100.0%
合 計	7,903	7,787	98.5%	9,178	8,978	97.8%	8,581	8,289	96.6%	8,902	8,765	98.5%	8,320	8,187	98.4%



7 救命救急センター 42 床への入院患者数

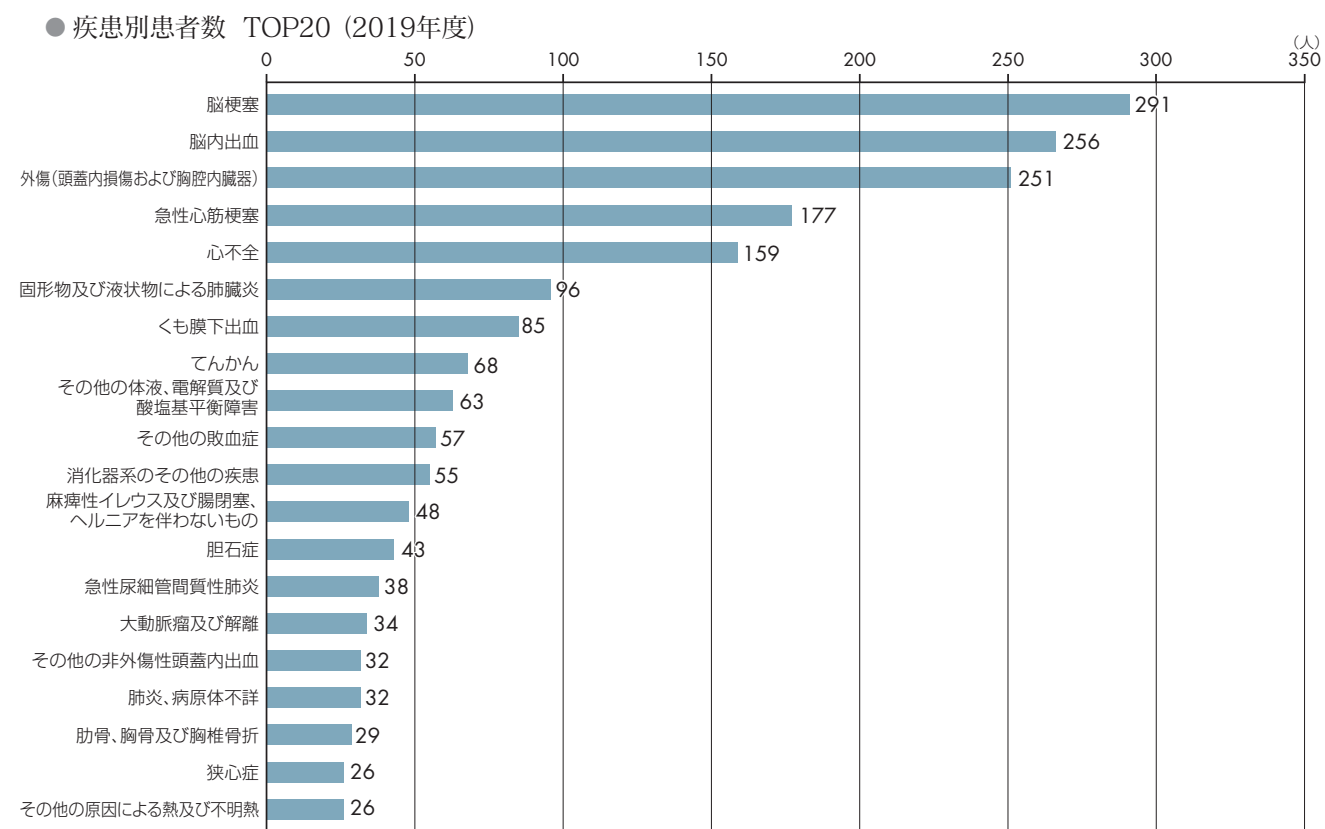
7-1 診療科別患者数

診療科	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
脳神経外科	652	721	694	695	622
救急・総合診療科	547	561	564	469	495
循環器内科	433	465	577	473	489
脳神経内科	420	492	484	442	384
呼吸器科	222	206	233	284	295
消化器内科	234	314	277	326	263
外科	141	166	208	155	120
腎・泌尿器科	61	65	107	81	80
整形外科	62	56	68	69	75
糖尿病内科	16	20	14	14	16
心臓血管外科	21	14	72	9	14
腫瘍内科	10	6	10	7	7
包括診療					3
合 計	2,819	3,086	3,308	3,024	2,863

7 救命救急センター 42 床への入院患者数

7-2 疾患別患者数 (TOP20)

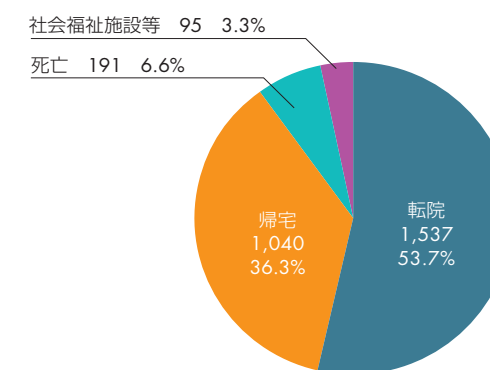
疾患 (TOP20)	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
脳梗塞	288	311	326	295	291
脳内出血	268	283	272	241	256
外傷 (頭蓋内損傷および胸腔内臓器)	290	301	280	310	251
急性心筋梗塞	115	129	209	160	177
心不全	183	173	181	178	159
固形物及び液状物による肺臓炎	68	65	73	86	96
くも膜下出血	83	108	101	89	85
てんかん	67	109	99	105	68
その他の体液、電解質及び酸塩基平衡障害	42	30	64	58	63
その他の敗血症	91	70	70	38	57
消化器系のその他の疾患	40	61	52	86	55
麻痺性イレウス及び腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	49	49	61	62	48
胆石症	36	34	60	53	43
急性尿細管間質性肺炎	7	12	48	24	38
大動脈瘤及び解離	34	49	94	20	34
その他の非外傷性頭蓋内出血	32	43	49	58	32
肺炎、病原体不詳	25	43	35	52	32
肋骨、胸骨及び胸椎骨折	5	11	18	15	29
狭心症	27	27	24	26	26
その他の原因による熱及び不明熱	9	22	19	23	26



7-3 転帰別患者数

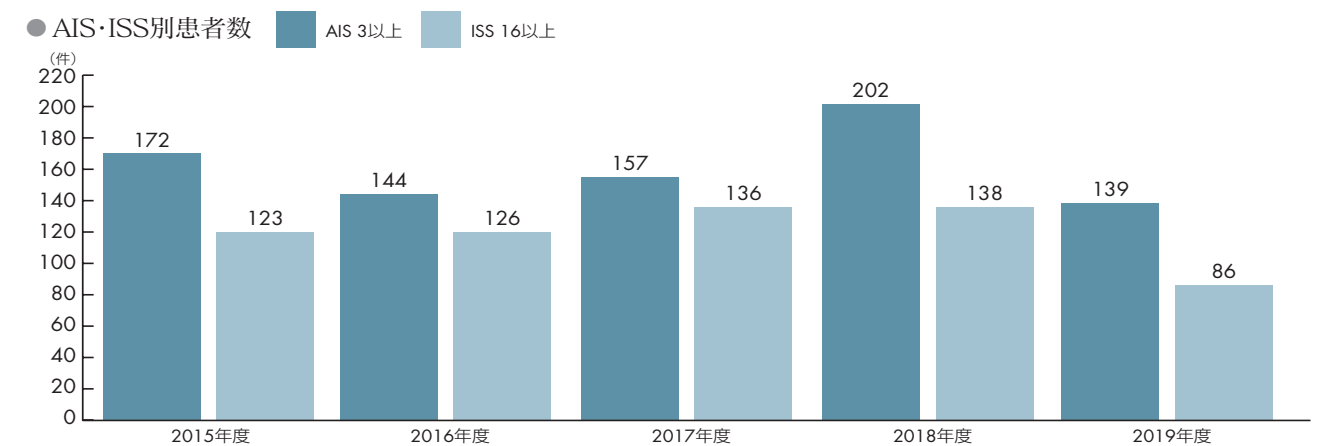
転 帰	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
転院	1,438	1,549	1,701	1,590	1,537
帰宅	1,010	1,126	1,216	1,142	1,040
死亡	267	277	274	164	191
社会福祉施設等	101	129	116	128	95
合 計	2,819	3,086	3,308	3,024	2,863

● 2019年度



7-4 外傷データベース (AIS・ISS 別患者数)

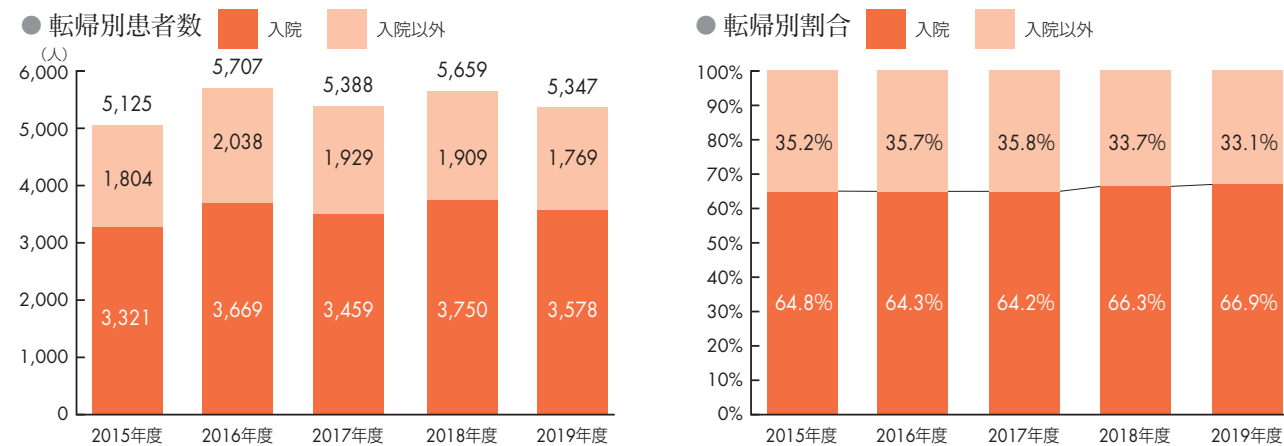
AIS (部位や損傷形態、重症度を表す) 3以上とISS (多部位、多発損傷を表す) 16以上の件数



8 紹介患者数

8-1 紹介患者の転帰

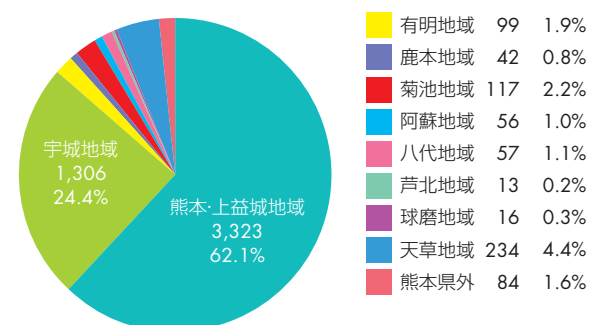
(人)						
	転帰	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
紹介患者数	入院	3,321	3,669	3,459	3,750	3,578
	入院以外	1,804	2,038	1,929	1,909	1,769
	合計	5,125	5,707	5,388	5,659	5,347



8-2 二次保健医療圏別紹介患者数 (紹介元医療機関の住所を基準にしている)

二次保健医療圏		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
熊本県内	熊本・上益城地域	3,237	3,577	3,395	3,613	3,323
	宇城地域	1,197	1,368	1,291	1,310	1,306
	有明地域	148	141	126	110	99
	鹿本地域	43	45	51	37	42
	菊池地域	97	115	118	90	117
	阿蘇地域	43	60	43	52	56
	八代地域	43	42	35	44	57
	芦北地域	13	13	14	31	13
	球磨地域	21	27	26	33	16
	天草地域	204	210	198	237	234
熊本県外		79	109	91	102	84
合計		5,125	5,707	5,388	5,659	5,347

● 2次医療圏別患者数割合 (2019年度)

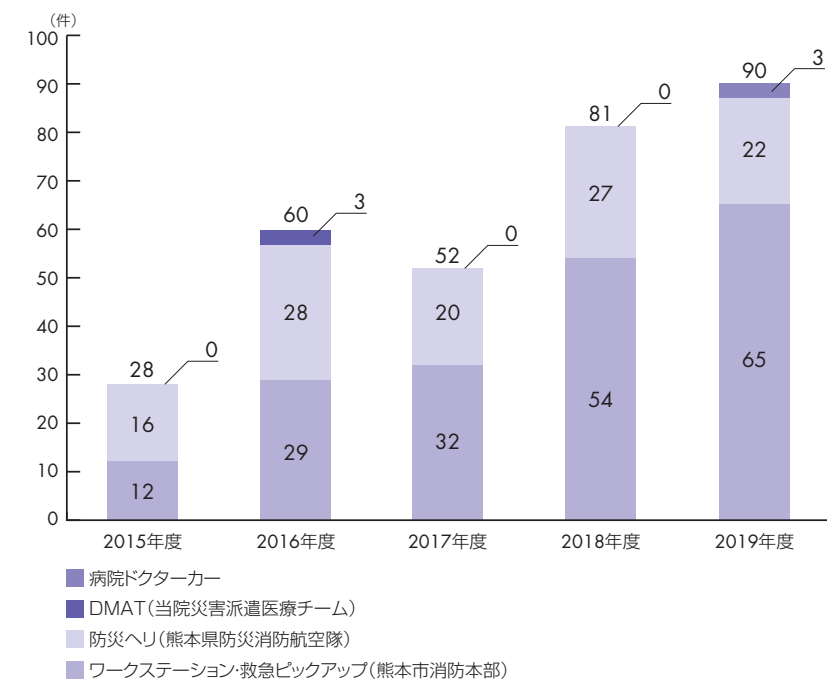


9 医師(現場) 出動件数

医師による(現場) 出動件数。

車 両	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
ワークステーション・救急ピックアップ (熊本市消防本部)	12	29	32	54	65
防災ヘリ (熊本県防災消防航空隊)	16	28	20	27	22
病院ドクターカー	0	0	0	0	3
DMAT (当院災害派遣医療チーム)	0	3	0	0	0
合 計	28	60	52	81	90

※出動内容
・ワークステーションドクターカーは現場出動
・防災ヘリは患者搬送のための搭乗
・DMAT は熊本地震による災害現場出動



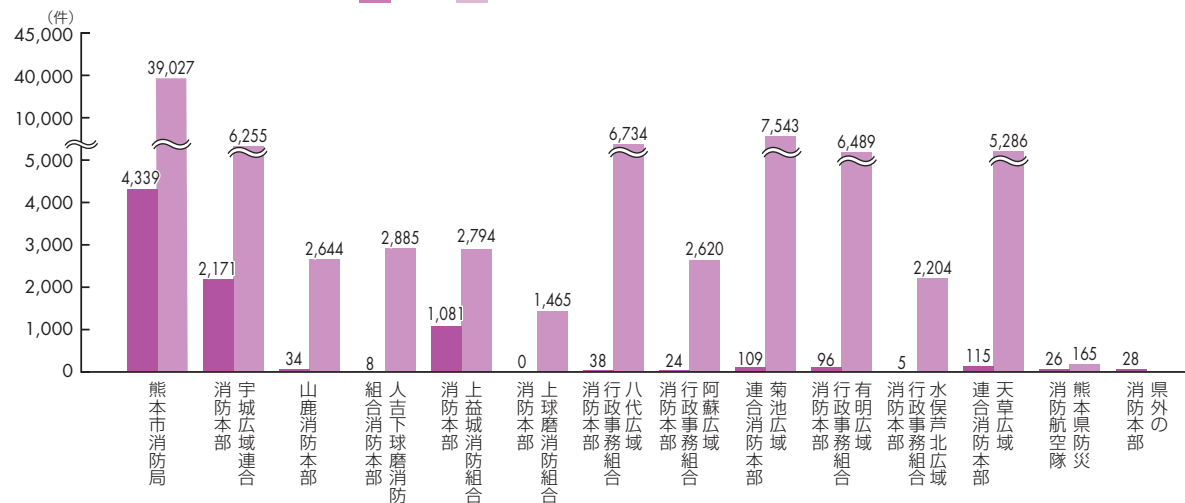
車 両	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ワークステーション・救急ピックアップ (熊本市消防本部)	7	5	3	7	8	2	6	7	2	10	8	0	65
防災ヘリ (熊本県防災消防航空隊)	1	0	1	5	2	2	3	2	0	5	0	1	22
病院ドクターカー	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	3
DMAT (当院災害派遣医療チーム)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	8	5	4	12	10	6	9	9	2	15	9	1	90

10 救急隊搬送件数

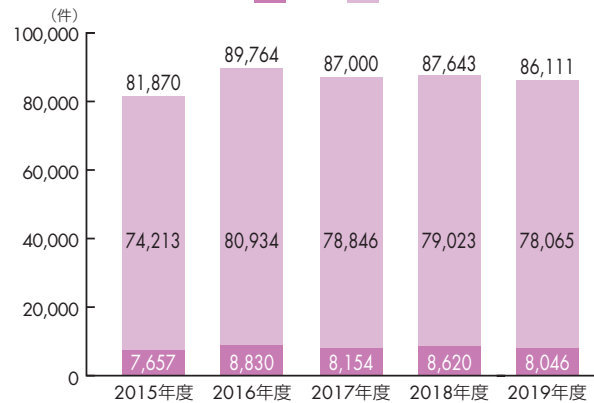
(件)

消防本部	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度	
	当院	全体	当院	全体	当院	全体	当院	全体	当院	全体
熊本市消防局	4,118	36,491	4,686	40,551	4,315	38,539	4,713	39,182	4,339	39,027
宇城広域連合消防本部	2,119	6,034	2,386	6,672	2,194	6,377	2,306	5,987	2,171	6,255
山鹿市消防本部	29	2,361	36	2,698	42	2,729	40	2,797	34	2,644
人吉下球磨消防組合消防本部	3	2,600	3	2,636	5	2,849	5	2,689	8	2,885
上益城消防組合消防本部	961	2,797	1,215	3,092	1,177	2,936	1,155	2,788	1,081	2,794
上球磨消防組合消防本部	0	1,478	0	1,511	1	1,436	0	1,378	0	1,465
八代広域行政事務組合消防本部	15	6,042	20	6,827	23	6,739	28	7,357	38	6,734
阿蘇広域行政事務組合消防本部	24	3,035	28	3,136	28	2,777	29	3,057	24	2,620
菊池広域連合消防本部	113	7,121	117	7,826	123	8,272	106	7,594	109	7,543
有明広域行政事務組合消防本部	166	6,441	155	6,991	114	6,728	98	6,946	96	6,489
水俣芦北広域行政事務組合消防本部	2	2,066	3	2,281	7	2,137	8	2,159	5	2,204
天草広域連合消防本部	49	5,210	72	5,298	74	5,172	94	5,355	115	5,286
熊本県防災消防航空隊	27	194	36	245	31	309	38	354	26	165
県外の消防本部	31	—	73	—	20	—	29	—	28	—
合 計	7,657	81,870	8,830	89,764	8,154	87,000	8,649	87,643	8,074	86,111

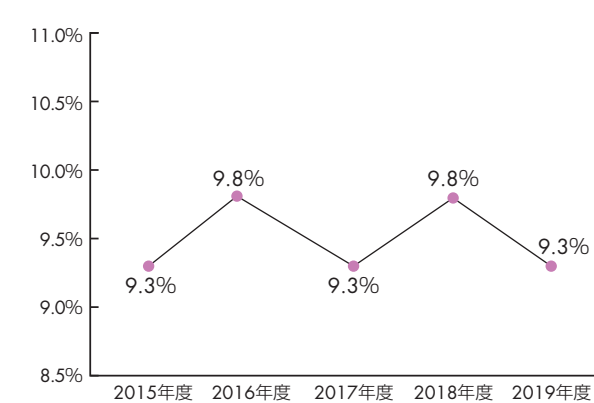
● 消防本部別 (2019年度) ■ 当院 ■ 全体



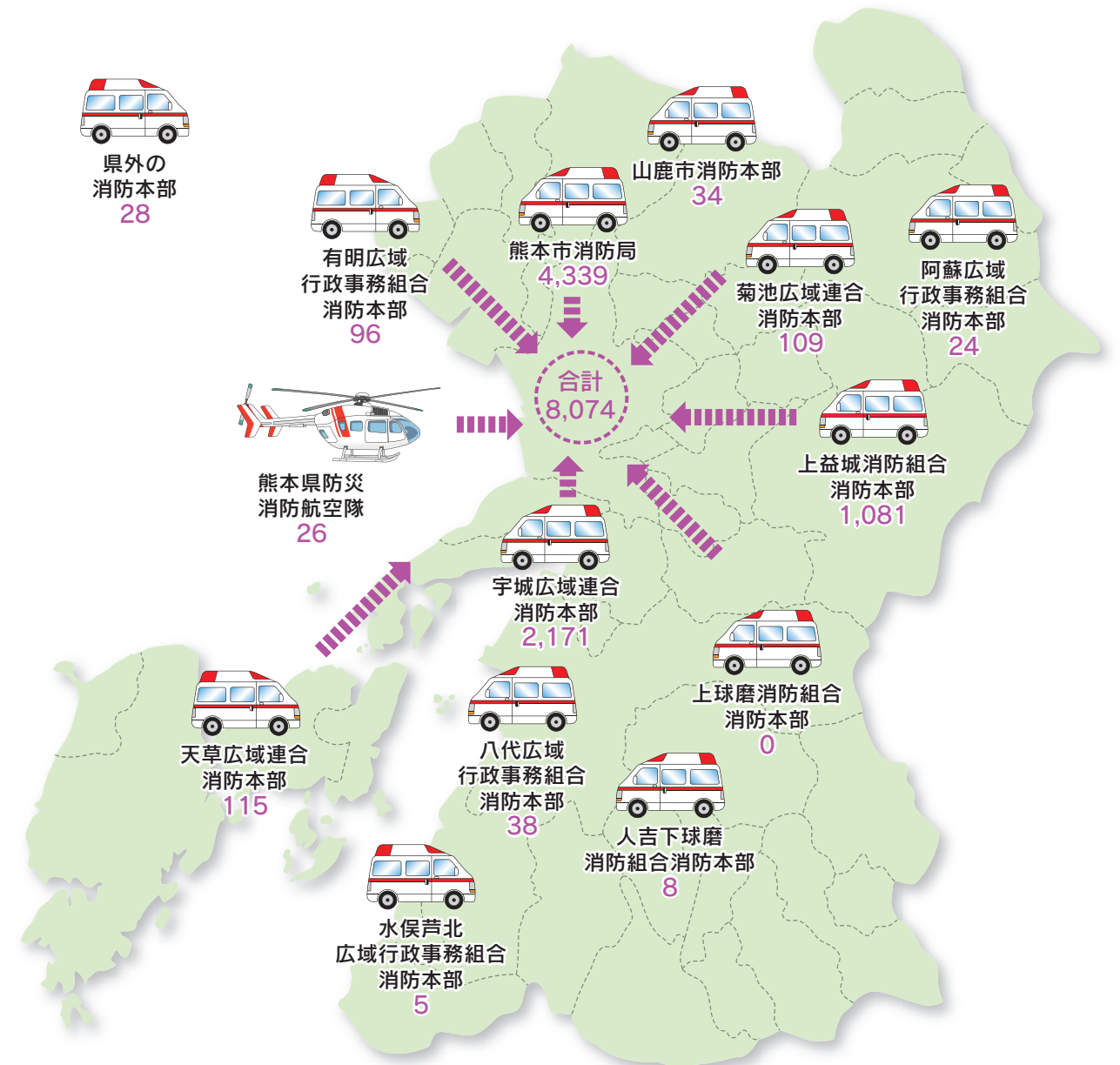
● 救急隊搬送件数 ■ 当院 ■ 他の医療機関



● 県全体から見た当院への救急隊搬送割合



● 当院への搬送件数 (2019年度)



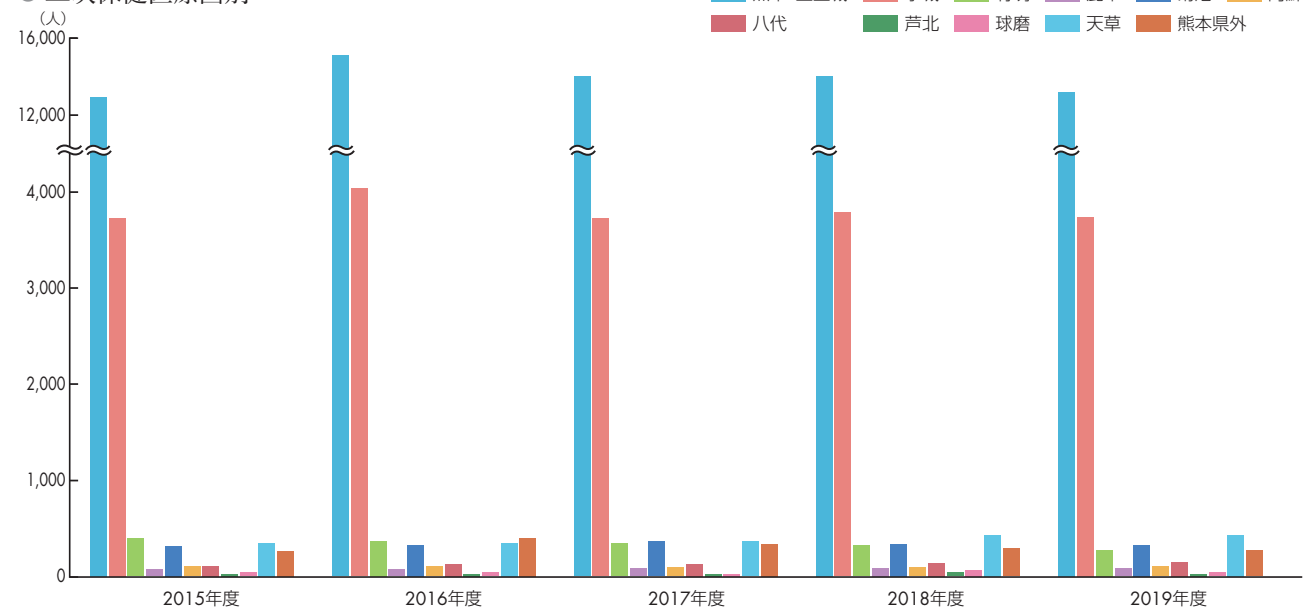
11 二次保健医療圏

11-1 患者数

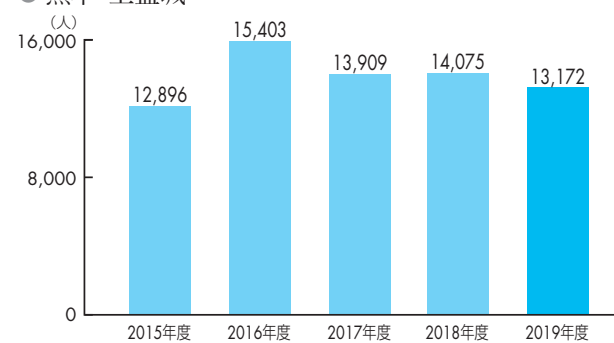
患者の居住区を基に二次保健医療圏で表した。

二次保健医療圏		2015 年度		2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度	
熊本県内	熊本・上益城	12,896	70.3%	15,403	71.9%	13,909	71.0%	14,075	71.3%	13,172	70.6%
	宇城	3,769	20.5%	4,102	19.1%	3,781	19.3%	3,839	19.4%	3,777	20.2%
	有明	397	2.2%	371	1.7%	357	1.8%	327	1.7%	275	1.5%
	鹿本	72	0.4%	98	0.5%	95	0.5%	89	0.5%	83	0.4%
	菊池	316	1.7%	359	1.7%	379	1.9%	343	1.7%	328	1.8%
	阿蘇	105	0.6%	128	0.6%	100	0.5%	94	0.5%	102	0.6%
	八代	111	0.6%	140	0.7%	150	0.8%	140	0.7%	151	0.8%
	芦北	24	0.1%	24	0.1%	31	0.2%	41	0.2%	23	0.1%
	球磨	41	0.2%	52	0.2%	38	0.2%	65	0.3%	39	0.2%
	天草	348	1.9%	352	1.6%	386	2.0%	437	2.2%	433	2.3%
熊本県外		267	1.5%	416	1.9%	349	1.8%	292	1.5%	273	1.5%
合 計		18,346	100.0%	21,445	100.0%	19,575	100.0%	19,742	100.0%	18,656	100.0%

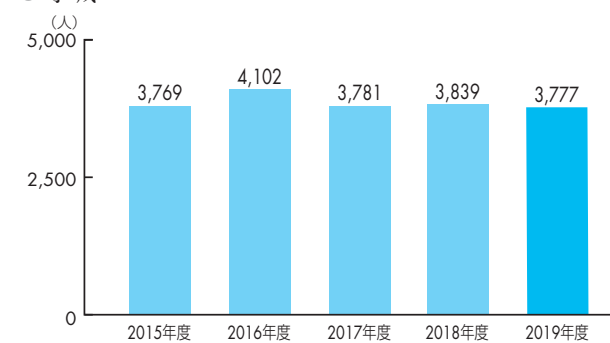
● 二次保健医療圏別



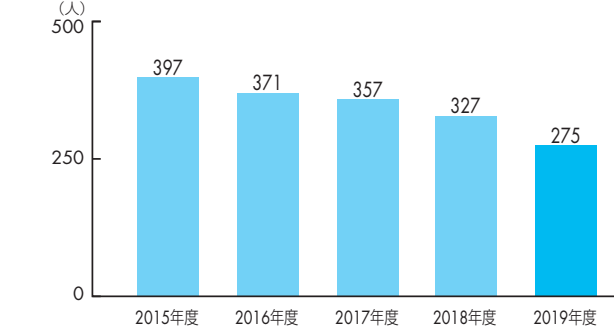
● 熊本・上益城



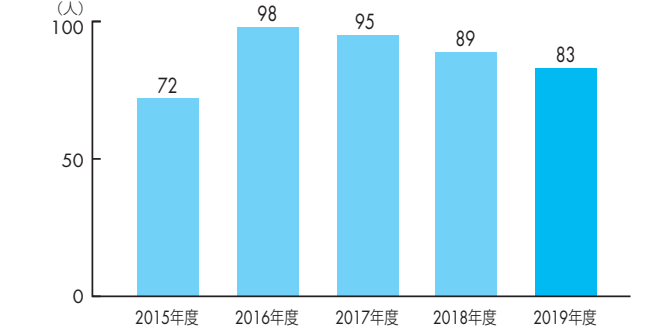
● 宇城



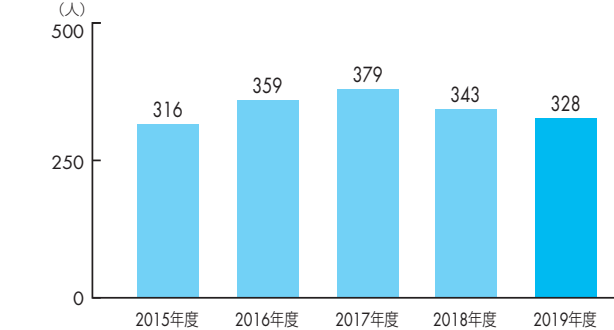
● 有明



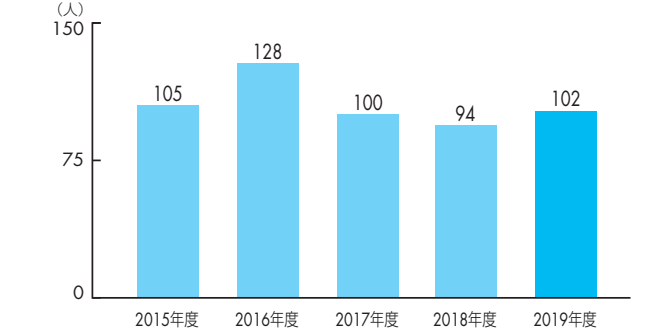
● 鹿本



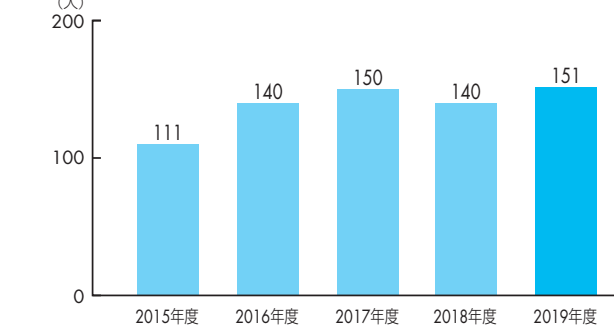
● 菊池



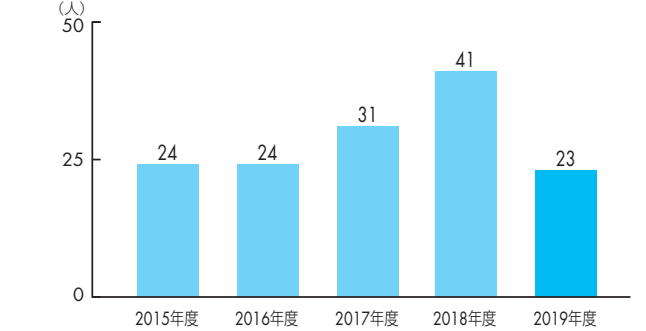
● 阿蘇



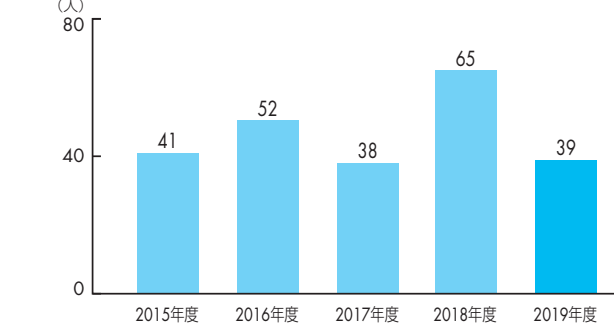
● 八代



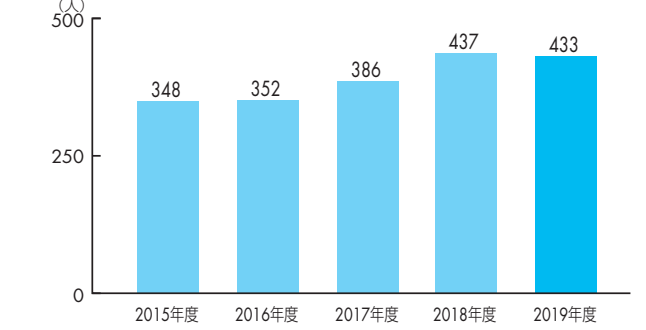
● 芦北



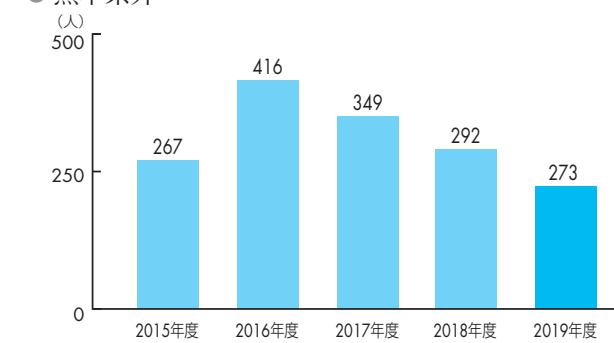
● 球磨



● 天草



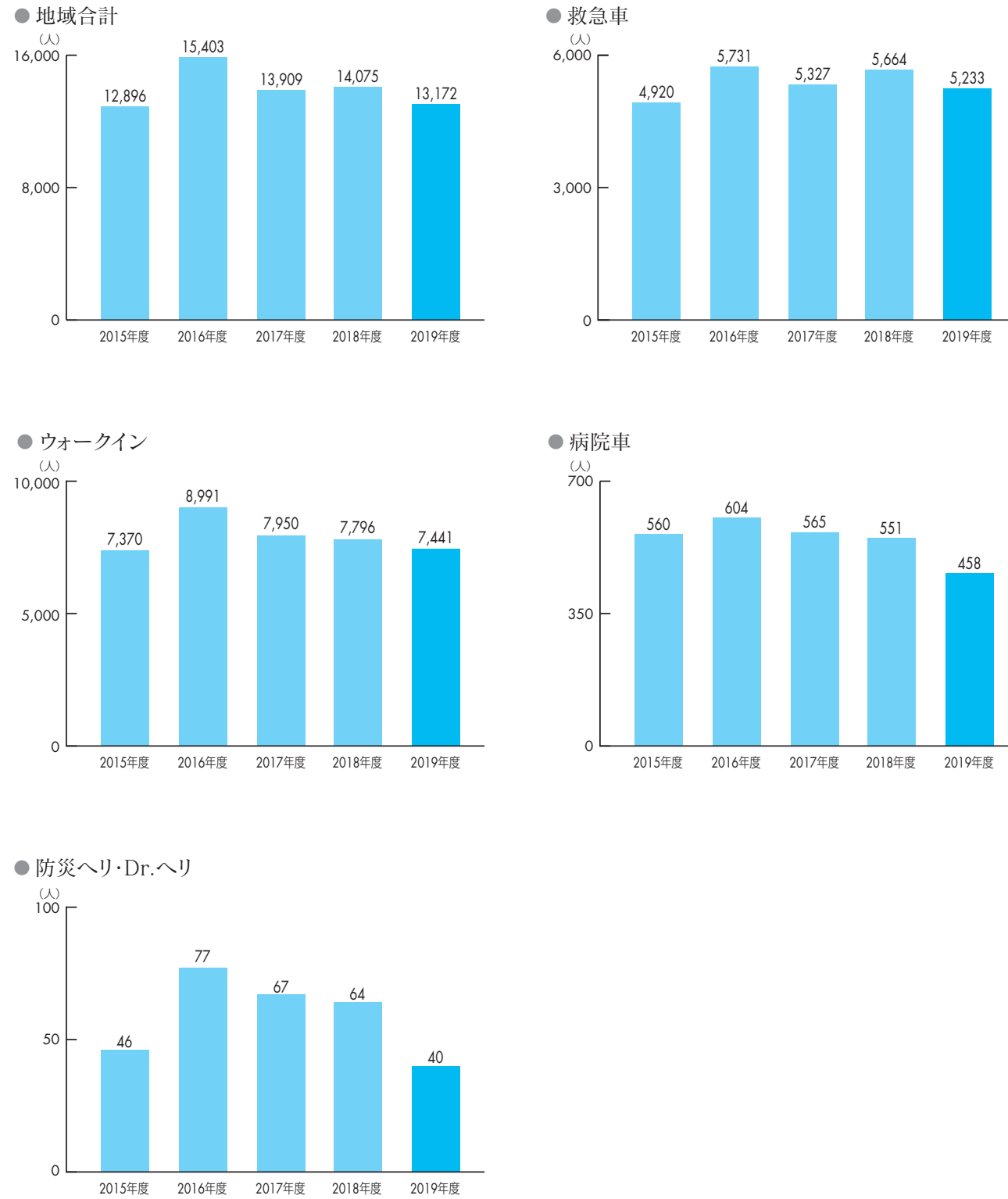
● 熊本県外



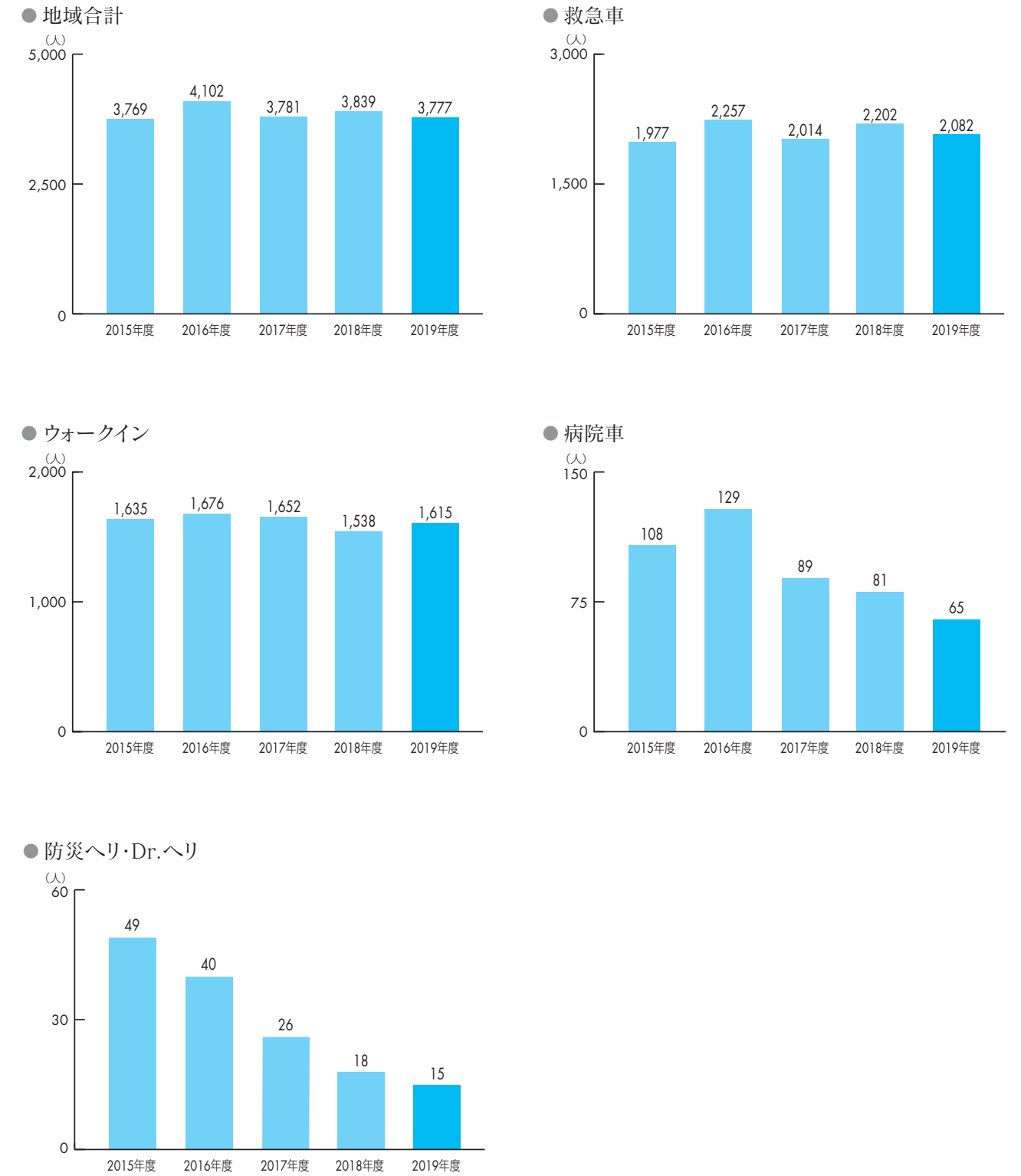
11 二次保健医療圏

11-2 来院手段別

熊本・上益城



宇城

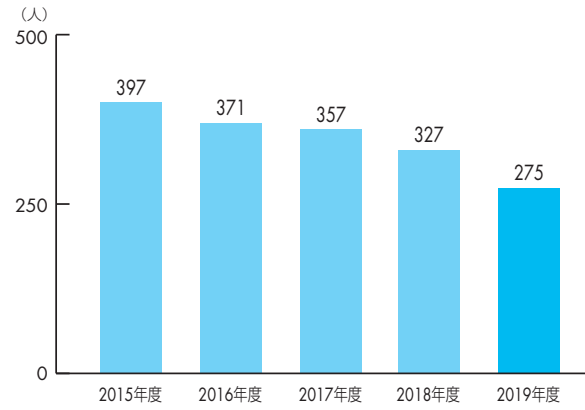


11 二次保健医療圏

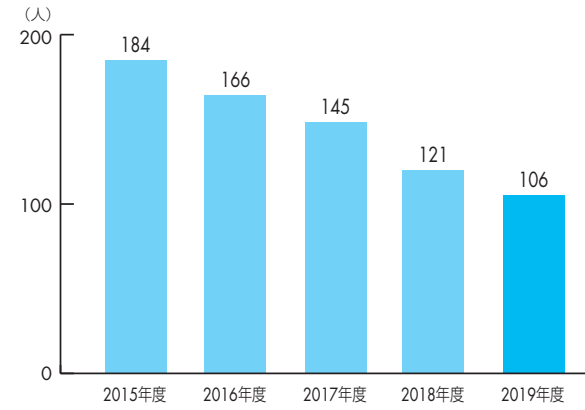
11-2 来院手段別

有 明

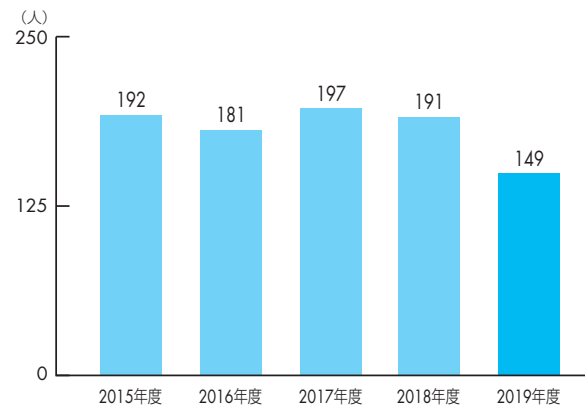
● 地域合計



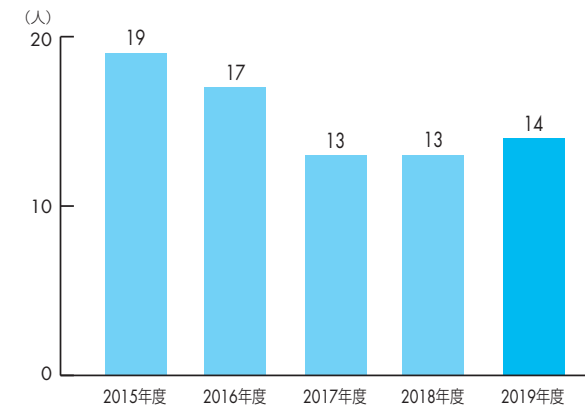
● 救急車



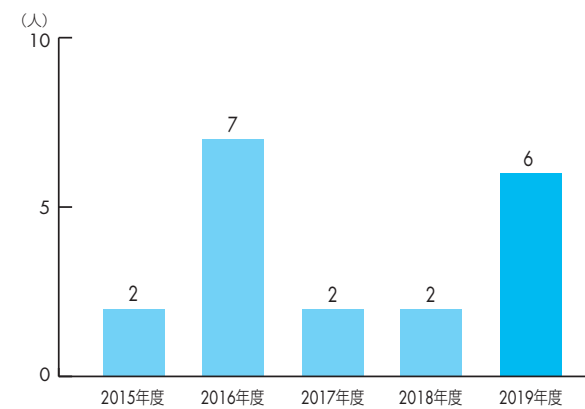
● ウォークイン



● 病院車

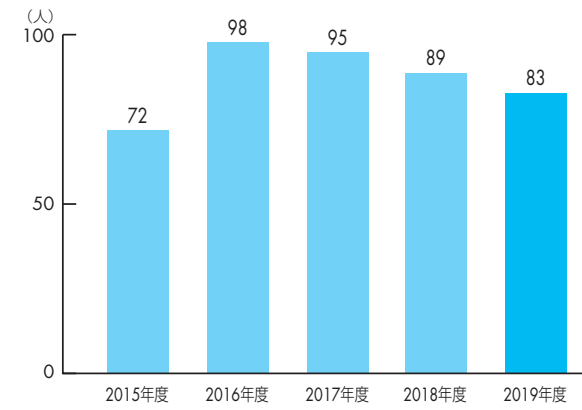


● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

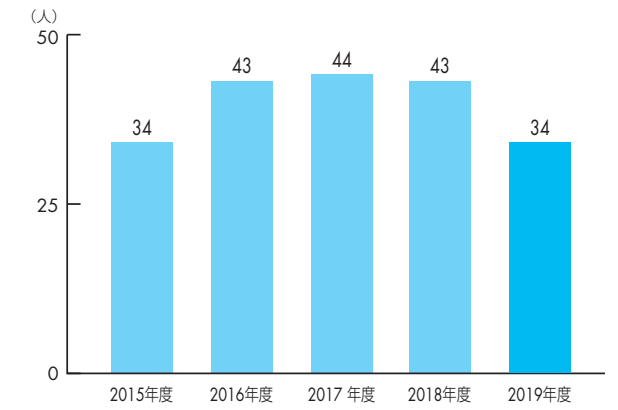


鹿 本

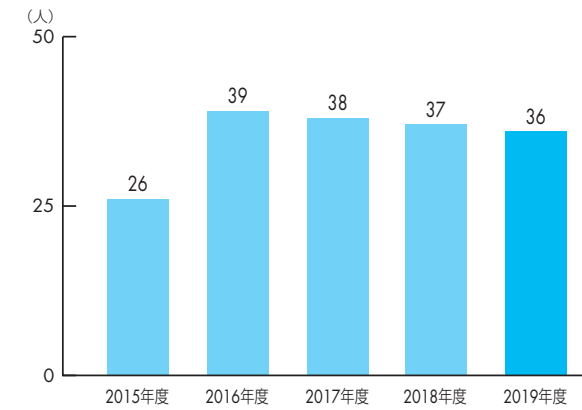
● 地域合計



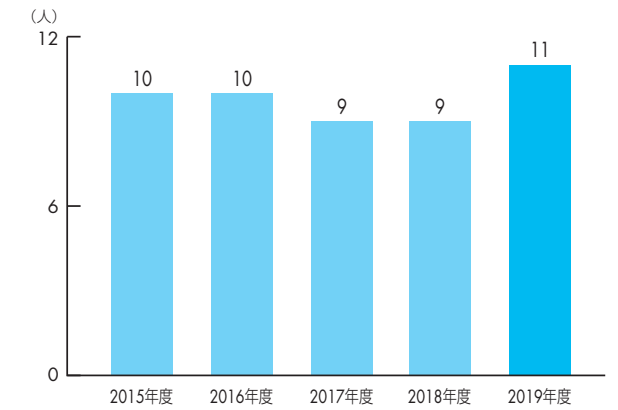
● 救急車



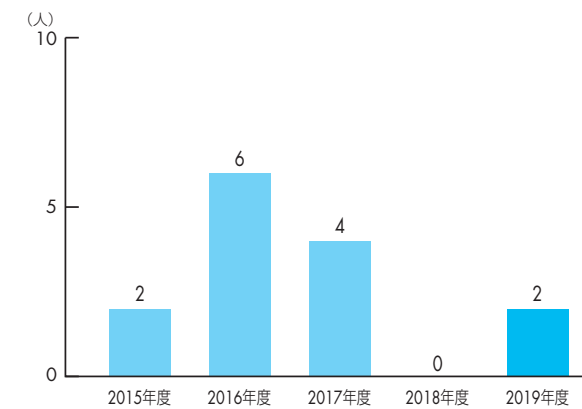
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

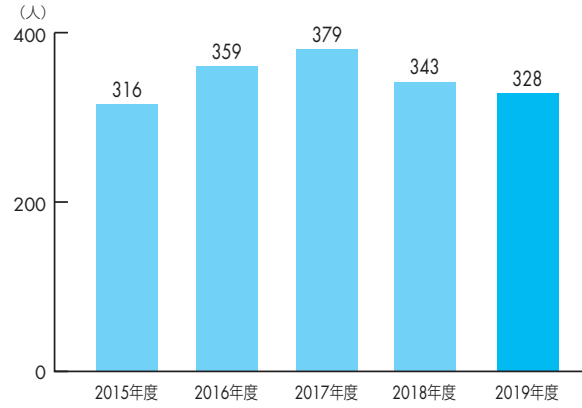


11 二次保健医療圏

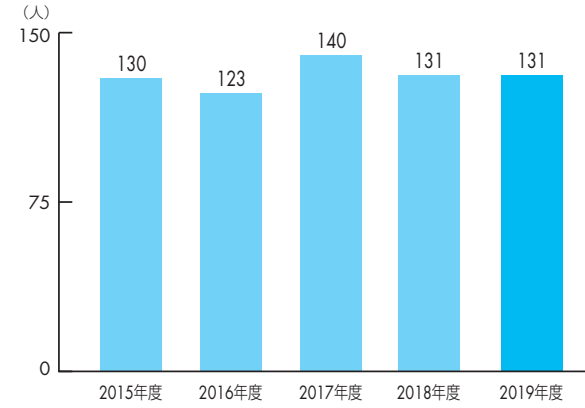
11-2 来院手段別

菊池

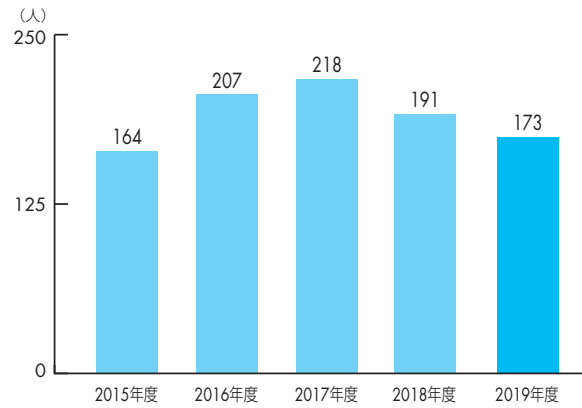
● 地域合計



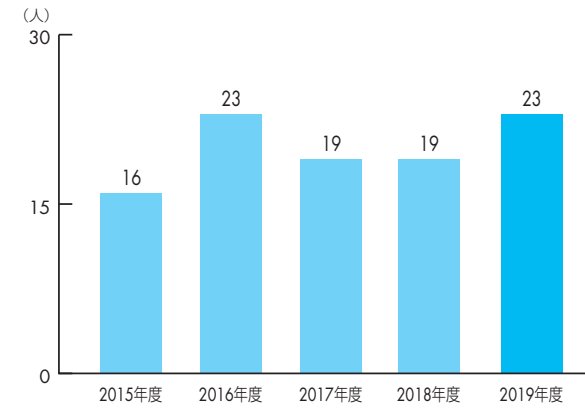
● 救急車



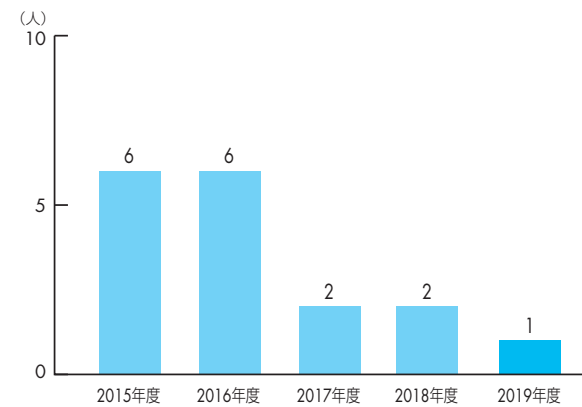
● ウォークイン



● 病院車

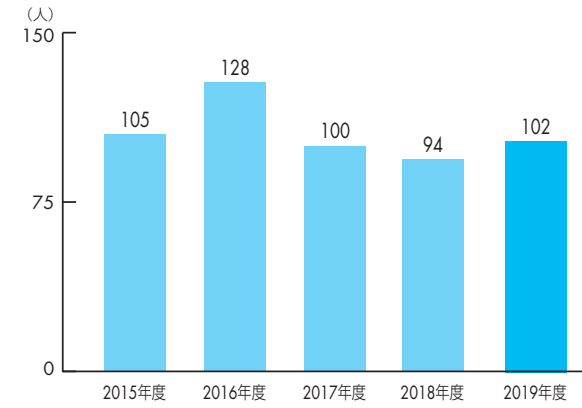


● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

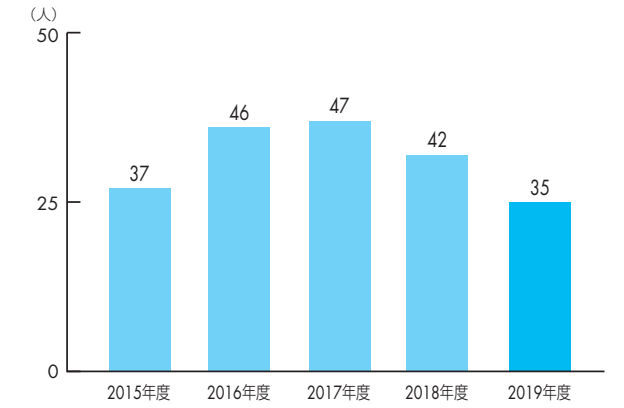


阿蘇

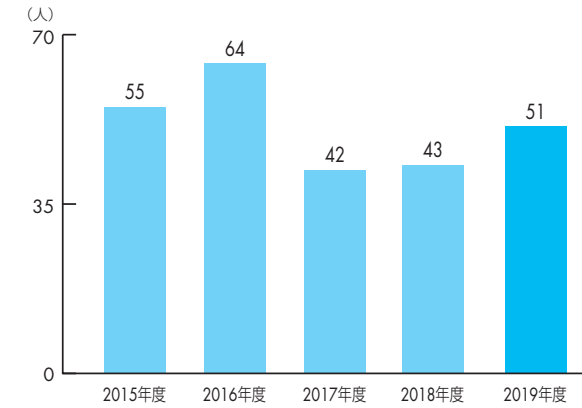
● 地域合計



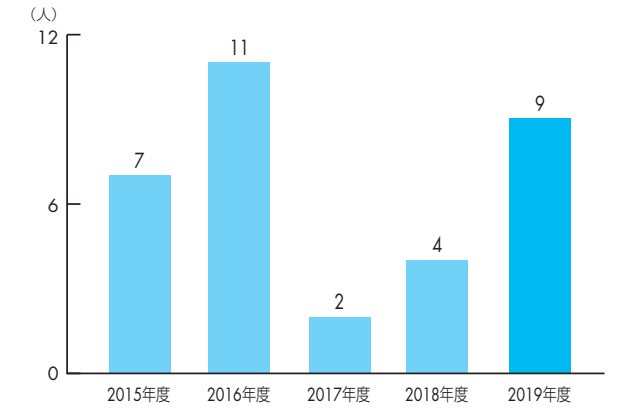
● 救急車



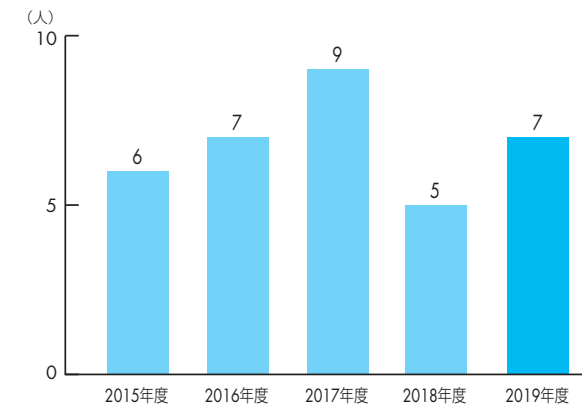
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

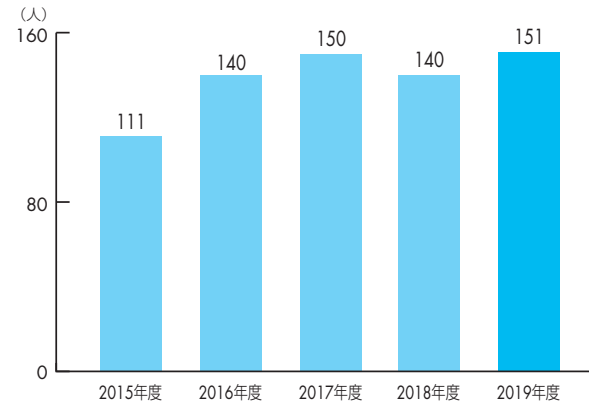


11 二次保健医療圏

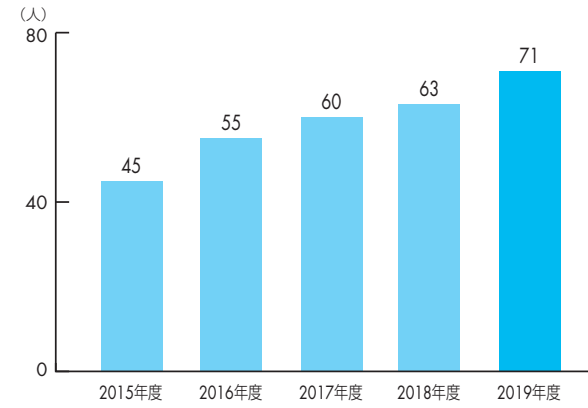
11-2 来院手段別

八 代

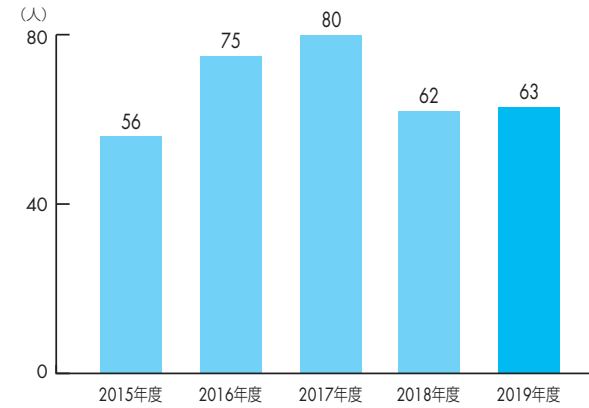
● 地域合計



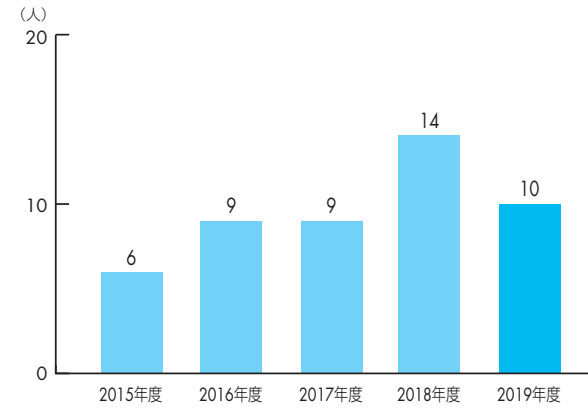
● 救急車



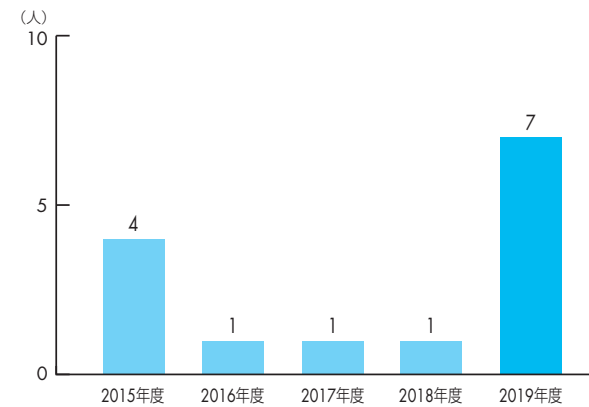
● ウォークイン



● 病院車

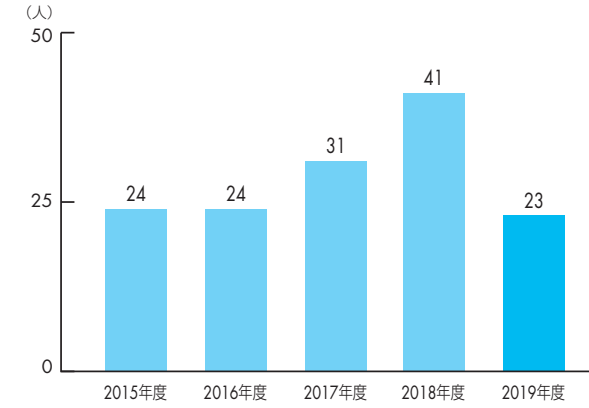


● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

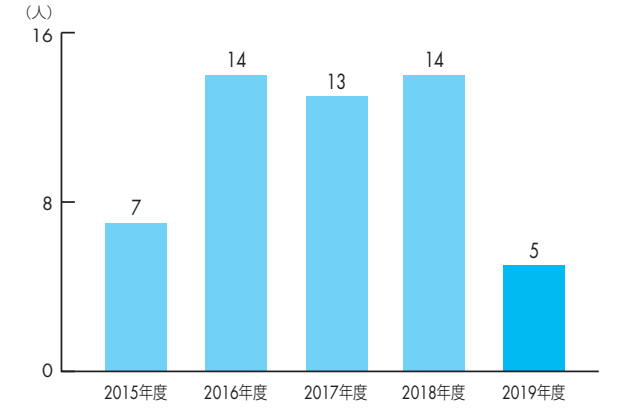


芦 北

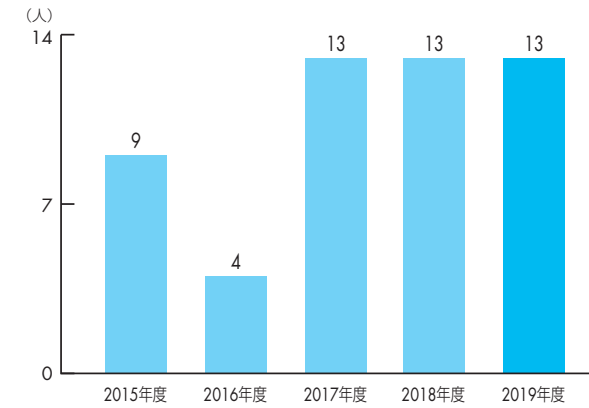
● 地域合計



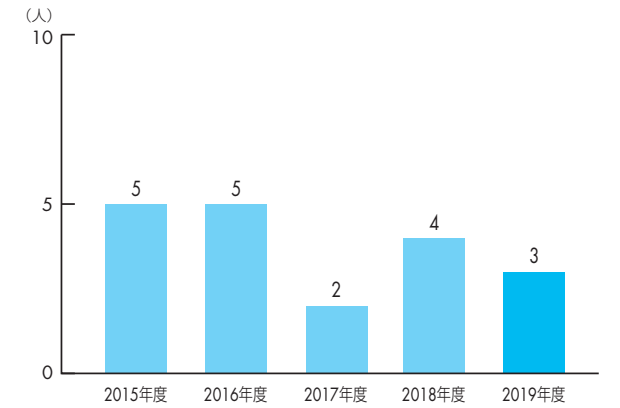
● 救急車



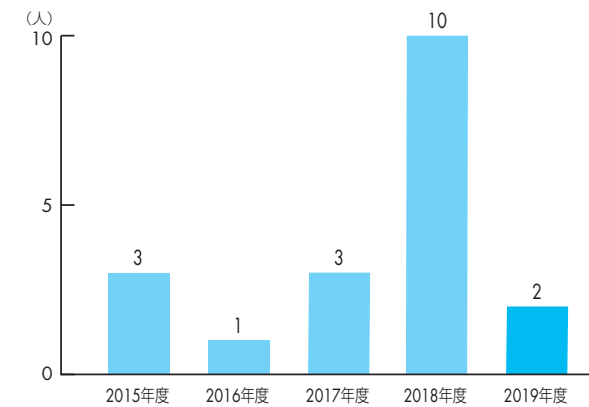
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

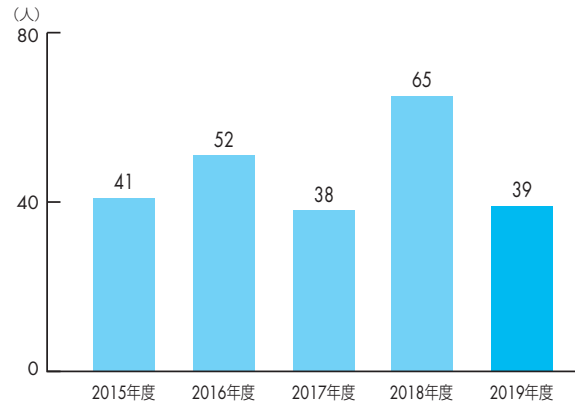


11 二次保健医療圏

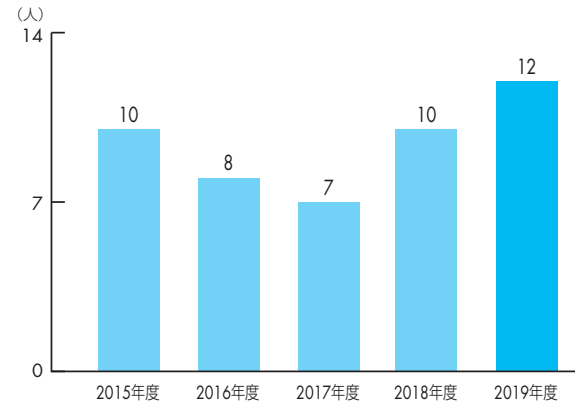
11-2 来院手段別

球 磨

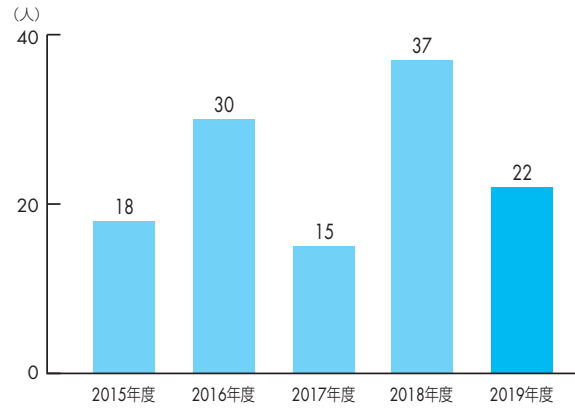
● 地域合計



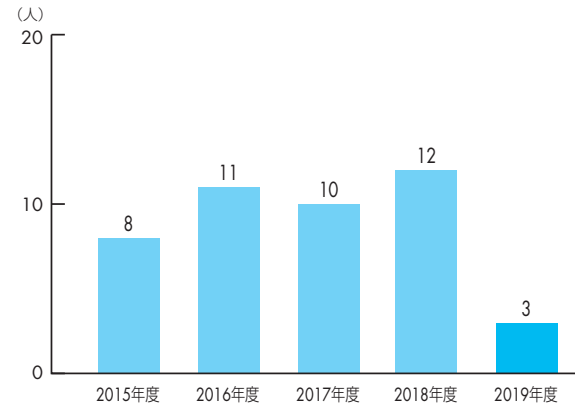
● 救急車



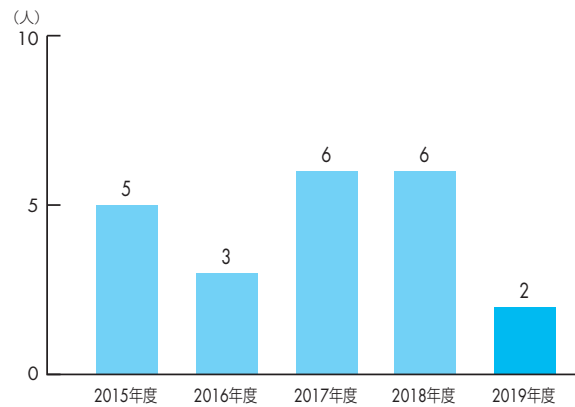
● ウォークイン



● 病院車

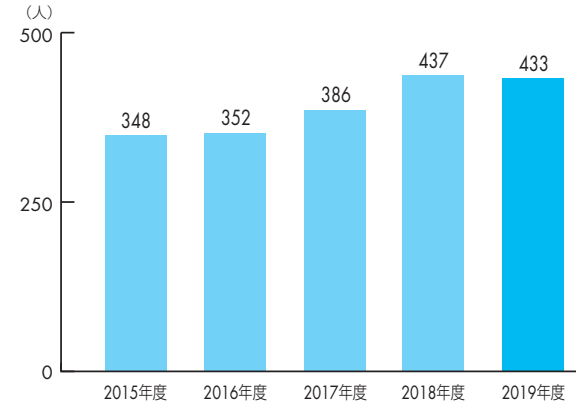


● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

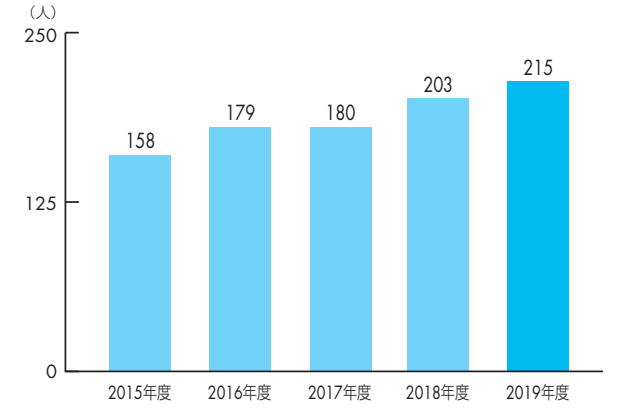


天 草

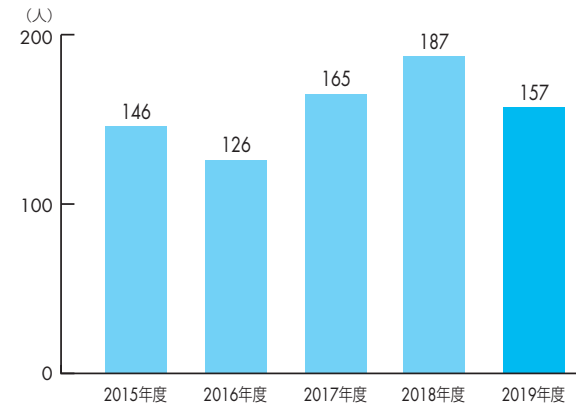
● 地域合計



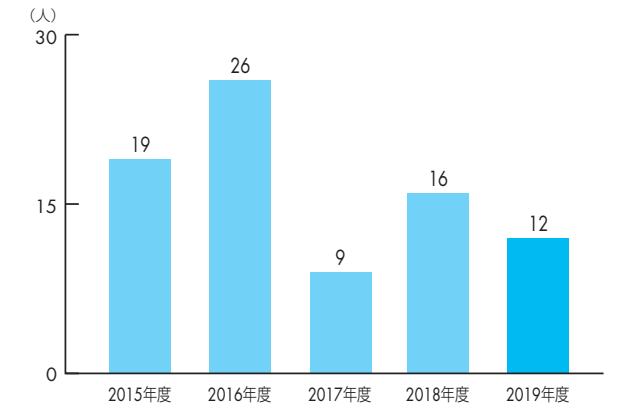
● 救急車



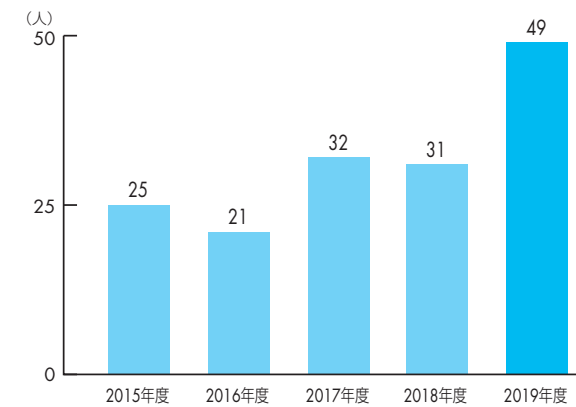
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

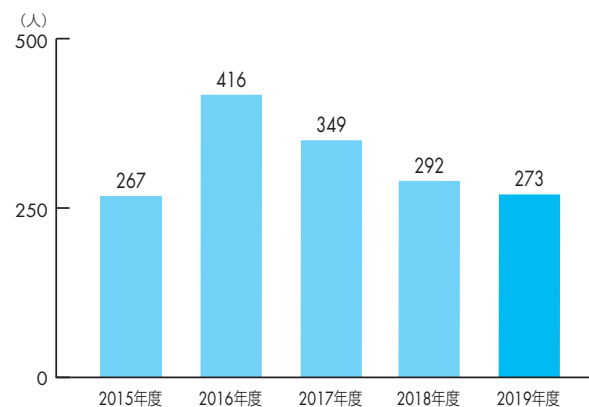


11 二次保健医療圏

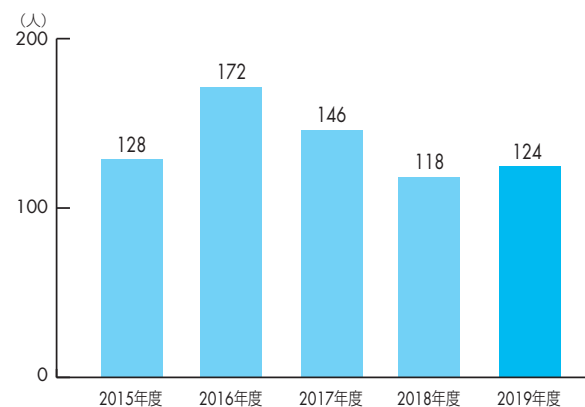
11-2 来院手段別

熊本県外

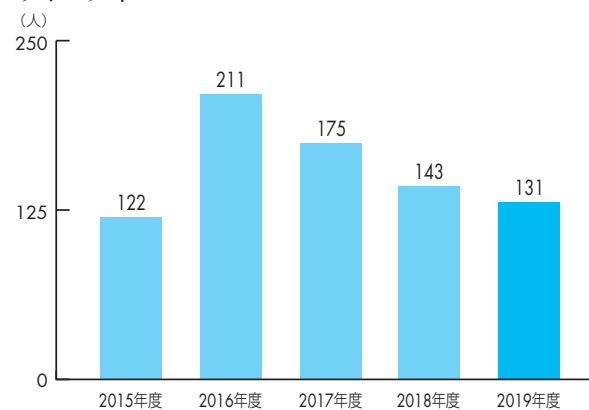
● 地域合計



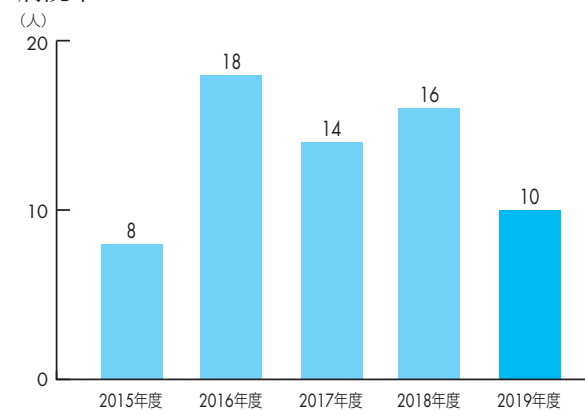
● 救急車



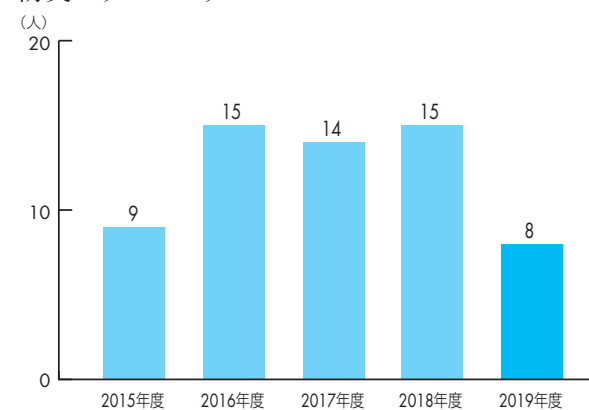
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ



救急統計

The Statistics of The Emergency Medical Care

2019

—《記事》—

C o n t e n t s

研修医・看護師プレホスピタル研修 (熊本市情報司令課見学と救急車同乗研修)	30
第2回4Rメディカルラリー開催	31
救命救急外来トリアージ (Walk-in患者の緊急度判定)	32
済生メディコン会	32

研修医・看護師プレホスピタル研修 (熊本市情報司令課見学と救急車同乗研修)

当院には熊本市消防局の救急ワークステーションが開設されており、医師の救急現場への出動により早期の医療介入に繋がっています。ワークステーションでの医師の現場活動内容を聞くことや、JPTECやメディカルラリーなどに参加する中で、看護師も救急隊の現場活動に興味を持っていました。2019年4月、消防からの医師・看護師ピックアップ要請事例があり、看護師も現場活動を経験し、重症事案などにも対応できるような知識やスキルを習得したいとの思いが強くなりました。

2018年度より、当院研修医が消防機関での研修を開始しており、熊本市消防局様のご厚意により、2019年度から救急外来所属の看護師も消防機関での研修を企画させていただきました。

研修内容は、午前中が熊本市中央消防署情報司令課の見学です。実際に市民からの119番通報を受け、救急車の車両手配と出動指示、情報整理・伝達、口頭指導など、日頃見ることができない指令本部を見学させていただきました。午後は、熊本市消防局南消防署にて、指令から出動までの流れ、現場での評価・観察、車内での活動や医療機関への引継ぎなどを体験させていただきました。また、南消防署では各消防車両の役割や資材設備などの説明をして頂き、夕刻には消防署の皆さんと一緒に夕食を料理し、食事をするなど楽しいひと時も過ごさせていただきました。

研修終了後の感想では、「司令課では、市民へ安心できる声かけを行い、適切に傷病者の状況を聞き出すテクニックやアセスメント力が必要」「指令から約1分で出動し、情報収集しながら現場に向かい、あらゆる状況を予測し資材を整えていた」「少ない情報の中から、現場の安全確保、短時間での状況評価や緊急度判定の難しさを感じた」「一人の傷病者に対し、地域でも多くの職種の連携により救命に繋がっている。医療は“ONE TEAM”だと実感した」「初期評価のスキルを高めたい」など前向きな声を聞くことができました。また、消防研修を経験したことで、JPTECやJNTEC、メディカルラリーにも積極的に参加するようになり、知識とスキルの習得にも繋がっています。さらには、『顔の見える関係作り』ができ、傷病者搬送時には、救急隊と看護師がお互い声をかけ合い、コミュニケーションも図れるようになっています。

熊本市中央消防署の方、南消防署の方、貴重な機会を頂きありがとうございました。



第2回4Rメディカルラリー 開催

2019年7月20日、第2回4Rメディカルラリーを熊本市、宇城、上益城等各消防局の協力のもと開催しました。九州一円から8チームのエントリーがあり、ボランティア、運営スタッフ合わせて、300名近くの方が参加しました。

メディカルラリーとは、救急医療の知識と技術の向上を目的に、医師、看護師、救急救命士から構成されるチームが、緊急事態を想定したシチュエーションにおいて、想定された時間内にいかに的確に情報収集、救出、治療、搬送などを行えるかを競うものです。

当院では、2014年から、熊本市の救急隊と合同でシミュレーション形式の勉強会「4R塾」を開催しています。2016年の熊本地震の経験から、救急隊や他施設と協力することの重要性や、あらゆる場面を想定した訓練の必要性が高まり、4R塾の活動の一環としてメディカルラリーを開催しています。



一般住宅で急病人が発生し訪問看護師（妊婦）が通報。指令員の口頭指導により患者対応を行うシナリオ



市民ホールでのアイドルイベントで、男性ファンによる爆発テロで多数傷病者へ対応するシナリオ



車2台とバイクが絡む交通事故。複数の傷病者が発生しており、トリアージと適切な評価・対応を行うシナリオ



消防と医療に関する清潔操作や、防火衣の着装など、日常的な活動の相互理解を試す訓練

※4Rとは
4つのR“The right patients in the right time to the right place with the right treatment!”「医療介入が必要な傷病者に適切な時間内に、適切な医療機関で、適切な治療を施すこと」を目標に、傷病者のための救急活動を医療機関と消防機関が協働で研究・学習していこうという活動です。

救命救急外来トリアージ (Walk-in 患者の緊急度判定)

当院は「断らない救急」を掲げ、様々な疾患の患者を受け入れています。救急外来を受診するWalk-in患者の中には、緊急度の高い患者も存在します。緊急度や優先度を判断し、安全な診療に繋げるために“救急外来トリアージ”を実施しています。トリアージはJTASを参考に、緊急度を4段階に分類して診察順を決定します。トリアージナースは、経験年数や必須の研修受講など、一定の基準を満たし医師の承認を得て晴れてトリアージナースとして認定されます。救急医師と看護師で毎月トリアージ検証会を開催し、トリアージの質の維持・向上に繋げています。また、今後、当院にてJTASコース開催を検討しています。



済生メディコン会

毎月第三水曜日に開催している済生メディコン会は、隣接する地域の消防本部救急隊が当院へ搬送した症例を基に振り返りを行う検証会で、2019年度末で233回を数えます。当院医師からのリクエスト症例や救急隊員が判断に悩んだ症例を議題とし、救急隊員による現場救急での処置・対応から車内経過の報告、医師による搬送後の治療経過説明・転帰報告を行い、通報から転帰までの一連の処置対応について意見交換を交え検証していきます。



第224回の様子



2019

救 急 統 計

編 集 発 行 社会福祉法人^{恩賜財団}済生会熊本病院
作 成 日 2020/00/00
編集責任者 中尾 浩一(院長)
前原 潤一(救命救急センター長)
作 成 部 署 救命救急支援室